BUDŌ NEWS

今月のニュース

高松宮記念杯争奪 第26回全日本銃剣道選手権大会

高松宮記念杯争奪第26回全日本銃剣道選手権大会

菅野学（福島）が初優勝を飾る

銃剣道日本一を決める高松宮記念杯争奪第26回全日本銃剣道選手権大会（主催＝全日本銃剣道連盟、後援＝日本武道館・日本武道協議会ほか）が、8月3日、日本武道館で開催された。西日本を襲った平成30年7月豪雨の影響により、9名の選手が不参加となったものの、全国各地の予選会を勝ち抜いた55名が覇を競い、菅野学（福島）が加藤久幸（高知）を1―0で降し、5回目の出場で、初めて優勝に輝いた。

大会に先立ち、西日本豪雨の犠牲者に対して黙祷が捧げられた。

開会式では、はじめに、新しく全日本銃剣道連盟の会長となった番匠幸一郎氏が挨拶に立った。

「本大会は日本中で何万人という剣

決勝＝延長戦で菅野（右）が下胴を決める

士の中で、日本一を決定する権威ある大会です。全国の剣士たちの模範となるような強さと美しさと品格のある試合をしてください」

次に来賓祝辞として、島村大参議院議員が挨拶を述べた。

「大会では、勝つ、負けるだけでなく、日本の武道、銃剣道の頂点に立つということを忘れずにいてください」

続いて、日本武道館の三藤芳生常任理事・事務局長が祝辞を述べた。

「この大会は日本一権威のある銃剣道の大会です。悔いのない戦いをしてください」

選手を代表して角康大選手が選手宣誓を行った。

「ここに立つ喜びと、選手権に出場するまでお世話になった全ての人々への感謝を胸に、この大会に参加できなくなった選手の分まで全力で最後まで戦い抜くことを誓います」

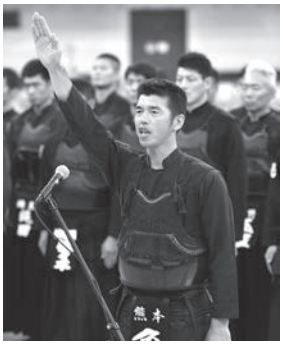
◇

試合はトーナメント方式により行われ、一試合は3本勝負・5分間とし、勝負が決しない場合は、勝負が決するまで無制限の延長戦を行った。

番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長

島村　大
参議院議員

三藤芳生
日本武道館常任理事・事務局長


選手宣誓
角　康大（熊本）

■1回戦〜3回戦

第1ブロックでは、池戸淳（愛知）が勝ち上がる。3回戦では二本勝で準々決勝へと進んだ。初出場の森山駿（埼玉）は、3回戦では、鳥澤俊輔（静岡）を延長の末、下胴で破り、堂々のベスト8入りを果たした。

第2ブロックでは、過去8回の出場経験のあるベテラン加藤久幸（高知）が勝ち進む。3回戦では、蒲嶋直樹（熊本）に対し、上胴の二本勝を決めた。ここで前回優勝の藤原考貴（岡山）が登場。1・2回戦では、先取後に一本奪い返され、2本目を決めて辛勝という展開が続き、不安を残す。それでも3回戦では二本勝を決めた。

第3ブロックでは、出場5回目の菅野学（福島）が接戦をものにして駒を進めた。菅野は、3回戦では教員として唯一の参加の滝沢元気（群馬）と対戦した。菅野が攻め、滝沢が機を窺（うかが）う展開。延長の末、上胴で菅野が一本勝を果たした。昨年準優勝の角康大（熊本）が登場。3回戦では、角が竹島慎一郎（鹿児島）に上胴を決めて、ベスト8へと進んだ。

第4ブロックでは、小倉弘之（静岡）が3試合とも一本勝で準々決勝に進出。徳田裕人（岡山）は、3回戦で前回3位の南脇章吾（香川）と対戦。徳田が肩で延長戦を制して、勝ち進んだ。

▽教員として唯一の出場＝滝沢元気選手（群馬）

「初出場だったので楽しもうと思いましたが、負けちゃいました。練習不足ですね。練習しないと、ここでは勝てないですね。この大会には思い入れがあって、第1回大会で父が出場して3回戦まで勝ち上がったのを観ておりました。来年はセンターコートで勝てる銃剣道をしたいと思います」

■準々決勝

菅野　学　上―　角　康大

基本の間合から攻める菅野に対して、それを受けて隙を狙う角。菅野は角の返し技を警戒しつつも、積極的に攻め入る。開始2分過ぎ、菅野は角の木銃を打ち払い、反対交差から連続で上胴を突いた。直ちに後方へと下がる角だが、菅野の木銃の先端は角の上胴を捉えて一本。必死に取り返そうとする角。しかし、時間一杯となり、菅野が1―0で準決勝へと進んだ。

▽ベスト8＝角康大選手（熊本）

「〝負けたな〟って感じですね。後ろの捌（さば）きをおろそかにしたのが敗因ですかね。集中力に欠けていました。年齢的に今年の大会でラストになるかもしれないです。また、今年は選手宣誓をやる機会もあったので、初心に戻ってやろうと思って臨みました」

準々決勝＝菅野（左）の上胴

小倉弘之　上―　徳田裕人

序盤より、小倉が攻勢をかけて、徳田に攻める隙をあたえない。接近戦での攻防は、小倉が主導権を握り、試合を優位に進める。終盤、しばしの膠着が続いて基本の間合になった瞬間、小倉が表の交差から上胴を鋭く狙う。徳田はそれを躱す間もなく、見事な一本が決まった。試合はそのまま終了し、1―0で小倉が準決勝へ進出した。

▽**ベスト8＝徳田裕人選手（岡山）**

「何もさせてもらえなかったのが正直な感想ですね。いつもどおりの試合をしたつもりなんですけど、やはり相手の方が上手でした。気を抜いた瞬間にやられました。そこを狙われていたので、5分間の中でどれだけ先に隙を見つけられるかが勝負の境目になってきますが、先に捉えられてしまいました」

準々決勝＝小倉（左）が見事な上胴を決める

池戸　淳　下上―　森山　駿

開始早々より、試合は激しく展開する。互いに攻め合って一歩も引かない。「待て」がかかり、その再開後、森山が3回連続して直突を繰り出すものの、一本とはならない。直後、両者は同時に木銃を繰り出した。池戸の木銃の先端が下胴をとらえ、池戸が先取した。必死に取り返そうと攻める森山だが、池戸は巧みにそれを捌き切る。反対に、池戸は森山の気が緩んだ一瞬に、鋭い上胴を決めた。池戸が試合時間およそ2分で二本勝を果たし、準優勝に駒を進めた。

▽**ベスト8＝森山駿選手（埼玉）**

「悔しいです。準々決勝では、池戸選手が攻めてきたので、お互い攻め合う試合となり、早く決着がつくなと感じていました。下胴を決められてから取り返そうと攻めましたが、雑に行き過ぎた部分がありました。もう少し、慎重にいっても良かったですね。今回、埼玉代表として埼玉の銃剣道を活性化するために少しでも多く勝ち進みたいと思って、臨みました。日本の頂点を目指し、これからも頑張っていきたいです」

準々決勝＝池戸（左）が鋭く上胴を突く

加藤久幸　ノ上―　藤原考貴

開始直後、藤原がのどを突くが有効突きとはならない。すぐさま後退する藤原に対し、加藤は間合をはかり、のどを鮮やかに突き返した。開始数秒で加藤が先取した。昨年覇者の藤原は意地を見せようと、機を窺いながら攻勢をかける。試合再開後、加藤が木銃の先端で藤原の木銃を払った瞬間、加藤は素早く上胴に出た。藤原はこれを防ぎ切れずに一本。試合時間わずか58秒で加藤は昨年覇者を降し、準決勝に進出した。

▽**ベスト8＝藤原考貴選手（岡山）**

「ベスト8まで来られたので、あともう一試合勝ちたいという気持ちが強かったのですね。相手は加藤選手という強い方だったので、のまれてはいけないと思っていたのですが、ダメでしたね。去年、優勝しているので、覇者らしくない試合をしたくないという気持ちもありましたし、周りの方からも観られていたと思うので、自覚を持っていこうと臨みました」

準々決勝＝加藤（左）が上胴で勝負を決めた

■準決勝

準決勝＝菅野（左）は勢いよく上胴に飛んだ

菅野　学　上―　小倉弘之

前半、基本の間合から接近戦での攻防が続き、互いに木銃を上下左右と小刻みに揺らしながら、機を窺い、時に仕掛けあう展開。しかし、有効突きは奪えない。中盤に、やはり互いにタイミングをはかっていた時、菅野が下胴を狙うと見せかけて、勢いよく上胴に飛んだ。小倉はそれに対応し切れずに一本。

菅野が1―0で、自身初となる決勝へと進んだ。

▽第3位＝小倉弘之選手（静岡）

「今まで菅野選手とは公式戦で対戦したことがなかったので、入りだけは注意しようと決めて、自分の攻めを意識した入りを心掛けました。とにかく、自分の持っているものを出して、出し惜しみすることなく戦っていこうと、それだけでした。銃剣道をする仲間が復興支援に携わっていて、大会の良いニュースを仲間たちに届けて、復興に少しでも支えになればいいかなと考えて、今大会に臨みました」

加藤久幸　ノ―　池戸　淳

試合前半、準々決勝と同様に池戸が積極的に攻勢をかけて、一本を奪いに掛かる。加藤はそれを躱し、あるいは捌きながら、間合をきって反撃に転じる。加藤は池戸の出方を探りながらも、ジリジリと池戸に迫っていく。

両者決め手に欠けて、延長戦に入った。延長に入り2分過ぎ、加藤が池戸の木銃を払い、池戸の体勢が崩れた。その瞬間を見逃さず、加藤はのどを決めて、一本。加藤が決勝へと進んだ。

準決勝＝加藤（左）は池戸の隙を見逃さなかった

▽第3位＝池戸淳選手（愛知）

「自分なりに持っているものは精一杯出せたのかなと思います。相手が強かったので自分も負けないように頑張った結果ですかね。準決勝では、まだまだ自分の実力が足らなかったのかなと感じます。相手の選手が格上でした。大会には結果を求めずに自分のやれることを出し切ろうと思って臨みました。試合1週間前からは、午前中は銃剣道の稽古、午後は体力トレーニングをしていました」

準決勝＝別アングルからの加藤（右）ののど

■決勝

決勝＝試合前半、接近戦で紙一重の攻防を展開する両者

決勝＝延長戦で菅野（左）が下胴を狙って、一本

菅野　学　下―　加藤久幸

菅野は5回目、加藤は9回目の選手権出場であるので、互いにベテランである。準々決勝で菅野は昨年2位の角を、加藤は昨年覇者の藤原を破り、共に初めての決勝の舞台に上り詰めた。張りつめた空気の中、試合は始まった。

開始早々に加藤が上胴に飛ぶ、それを巧みに躱す菅野。場内からは大きな歓声が湧き上がる。接近戦で、木銃を自在に操作し、紙一重の攻防を展開する両者。互いに〝負けられない〟という気迫に漲（みなぎ）っている。試合が中断して再開となれば、互いに出端を狙い合う。互いが絶妙なタイミングで木銃を繰り出し、有効突きを奪いにかかる。

両者とも一本を取れないまま迎えた延長戦。やはり、互角の戦いを繰り広げる両者。延長1分過ぎ、菅野が表の交差から一歩踏み込み、腰を落として加藤の木銃を縫うように下胴を狙った。これを防ごうとする加藤だが、間に合わずに、一本。何度も頷きながら、勝利を噛みしめる菅野。場内から大きな歓声が上がるなか、ここに新たな覇者が誕生した。

仲間と共に飾った初優勝

◎優勝＝菅野（かんの）　学（まなぶ）選手（福島）

決勝終了直後、菅野選手はチームメイトからの手厚い祝福を受けていた。当人はもちろんだが、仲間達が我がことのように喜んでいるのがよくわかる。優勝の余韻が冷めやまぬ菅野選手にインタビューを試みた。

「このような大きな大会では優勝経験どころか、決勝に進むこともなかったです。今回、相手はみな強い選手ばかりでしたが、一つ一つ勝ち上がり、優勝することができましたので、大きな自信になりました」と大粒の汗を拭いながら笑顔で応じてくれた菅野選手。次に決勝を振り返ってもらった。

「加藤選手をなかなか崩すことが出来なかったのですが、自分の得意の一手を信じて戦いました。延長戦で一本が取れて良かったです」

準々決勝は入賞常連の角選手との対戦であった。

「角選手には一度も勝ったことがありません。〝どうしようかな〟と悩みながら試合に入りましたが、準々決勝まで来れたのも自信になっていたので、思いっきりいこうと試合に臨みました」

今回、菅野選手は5回目の出場であった。どのような気持ちで臨んだのであろうか。

「毎年、毎年、1・2回戦で終わっていました。上位入賞したいなと思っていましたが、トーナメント表を見て強い選手が多いブロックに入ってしまったなあと（笑）。一つ一つ大事に戦おうと思いました」

2回戦では前々回準優勝の西村健選手に競り勝った菅野選手。初めの応答のとおり、一つ一つ手を抜けない試合が続き、その辛勝が自信となり、決勝での迷いのない試合運びに繋がったことが窺える。

大会に向けての何か特別な稽古はあったのであろうか。

「師範の先生もお忙しく、なかなか稽古を見ていただけなかったので、そんな時は自分が主導で稽古をしておりました。具体的には、練習中もパートナーの意見を聞いたりと、互いに言い合える環境を作ろうと心がけていました。それが徐々に浸透して、後輩たちも色々と意見を言ってくれるようになりました。それも優勝の大きな要因だと思います」

先ほどのチームメイトからの手厚い祝福は、一丸となって稽古をしてきた結果であるようだ。では、もう一つの大事な人間関係である家族のサポートはどうだったのであろうか。

「遠征になると家を空けることが多くて、妻は一人で子供2人の面倒をみたりと迷惑をかけてますが、理解があり、よく応援もしてもらいサポートしてもらっています。え？大会直前に何か会話したとかは特にありませんよ（笑）」

自分の目標に理解のある妻、家族。羨ましい環境である。

次に銃剣道について伺ってみた。

「銃剣道は小学校3年生から始めました。自分の出身は小さな集落ですが、そこでは銃剣道が盛んでした」

自衛隊の入隊前から銃剣道を行っていたのは実に興味深い。菅野選手は現在36歳。およそ30年近く銃剣道を行ってきたことになる。菅野選手にとっての銃剣道を伺った。

「小さい時からやってきた銃剣道です。自分にとっては日常生活の一部です」

菅野選手にとって切っても切れないもの。それが銃剣道ということであろう。最後に今後の目標を伺った。

「選手権で優勝しても、自分にはそんなに実力はないと思っています。銃剣道は、これからも地道に続けていこうと思います。自分も40歳に差し掛かっていますので、現役を引退した後は、後輩の育成が目標ですね」

菅野選手にとって、選手権の優勝はもちろん嬉しいことだが、仲間とともに稽古する銃剣道が一番大切である。そんなことが節々から滲（にじ）み出ていた。自分にはそんな実力はないと謙虚に語っていた菅野選手だが、等身大で物事を見つめ、後輩からの意見を受け入れ、それを活（い）かすその姿勢から、真の覇者の品格を垣間見た気がした。菅野選手の今後に期待したい。

○準優勝＝加藤久幸（かとうひさゆき）選手（高知）

「災害派遣で出動していて、部隊の仲間の支えがあってこの大会に出られたので、感謝の気持ちをもって大会に臨みました。日頃の稽古もできない状況でも強い気持ちを持って臨めば、勝てると信じて決勝に臨みました。自分も今回で最後だと思って頑張ってきて、このように災害が起こった中で、連隊長以下、みんなが行ってこいと言ってくれたので、ここに来られました。感謝の気持ちでいっぱいです。

菅野選手とは歳が離れていて、団体戦だと自分が大将で、菅野選手は先鋒なので、なかなか剣を交えることはありませんでした。最後は気持ちの差で負けたと思います。若さのメリットは体力があることですが、歳を重ねたメリットは経験があることだと思います。その経験の多さで勝ち上がってこられたのかなと思います」

第26回　全日本銃剣道選手権大会

称号段位	出場回数	氏名	都道府県
教七	2	橋本　和也	（愛　媛）
錬六	5	菅野　学	（福　島）
錬六	4	西村　健	（大　分）
教七	2	宍浦　功二	（三　重）
錬六	初	滝沢　元気	（群　馬）
錬六	3	髙島　潤平	（福　井）
錬六	3	板垣　翔太	（北海道）
錬六	2	河端　勇樹	（広　島）
錬六	4	黒石　真二	（京　都）
錬六	4	鈴木　優太	（愛　知）
錬七	4	縄田剛太郎	（埼　玉）
錬六	5	竹島慎一郎	（鹿児島）
錬六	2	柴崎　隆之	（山　形）
錬七	初	栗原　毅	（北海道）
錬七	4	本村　和義	（山　口）
教七	5	角　康大	（熊　本）
錬六	初	外山　欽一	（高　知）
錬六	初	大久保就矢	（福　岡）
錬六	初	鬼塚　千春	（兵　庫）
教七	5	小倉　弘之	（静　岡）
教七	6	石川　治樹	（石　川）
錬六	2	江良　将人	（東　京）
錬六	2	伊藤　堅太	（秋　田）
錬六	3	山口　公仁	（北海道）
錬七	初	田上　雅大	（熊　本）
錬六	初	中村　貴臣	（大　阪）
錬六	初	皆越　和人	（宮　崎）
教七	初	徳田　裕人	（岡　山）
教七	3	近藤　英治	（宮　城）
錬六	初	宮村　康大	（富　山）
錬六	初	佐々木　亮	（神奈川）
錬七	6	南脇　章吾	（香　川）

優勝　菅野　学

準優勝　加藤　久幸

第3位　小倉　弘之

〃　池戸　淳

称号段位	出場回数	氏名	都道府県
錬六	3	秋元　陽樹	（福　島）
教七	3	河合　大地	（佐　賀）
教七	3	山口洋次郎	（茨　城）
錬七	初	小関　朋暁	（新　潟）
錬七	初	望月　一馬	（滋　賀）
錬六	2	池戸　淳	（愛　知）
錬七	3	薗田　泰之	（長　崎）
錬六	初	瀧谷　正志	（島　根）
錬六	2	佐藤　茂	（青　森）
錬六	初	川本　清孝	（北海道）
錬六	初	森山　駿	（埼　玉）
錬六	3	江口俊太郎	（福　岡）
錬六	初	鳥澤　俊輔	（静　岡）
教七	2	井上　幸信	（香　川）
錬六	2	榎本　篤	（和歌山）
錬六	4	中谷　和彦	（山　口）
錬六	3	蒲嶋　直樹	（熊　本）
錬六	2	玉置　健	（長　野）
錬六	初	山本　盾氏	（栃　木）
錬六	初	佐藤　弘一	（北海道）
教七	8	芳賀　淳一	（岩　手）
錬六	初	橋本　吉紘	（沖　縄）
教七	9	加藤　久幸	（高　知）
錬六	3	平尾　友道	（鳥　取）
錬六	初	春口　剛	（三　重）
錬六	初	上村　直也	（宮　崎）
錬六	初	吉岡　祐	（山　口）
錬六	初	岩下　英樹	（千　葉）
教七	初	宮下　寛	（山　梨）
教七	4	有馬　誠二	（宮　城）
錬六	2	町元　良二	（京　都）
錬六	4	藤原　考貴	（岡　山）

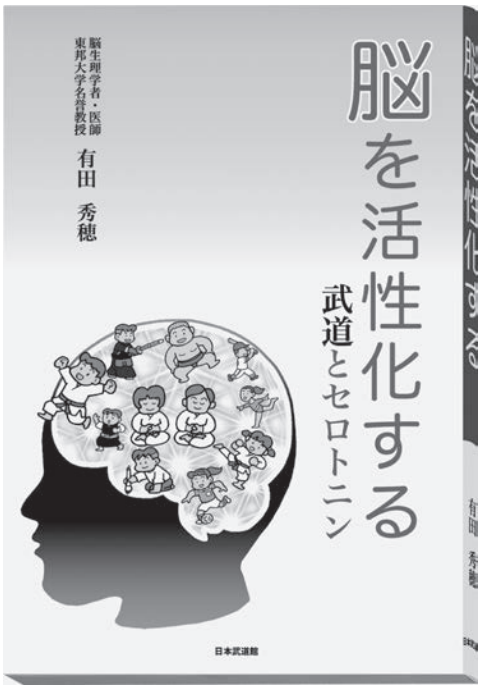
好評発売中

脳を活性化する

武道とセロトニン

脳生理学者・医師
東邦大学名誉教授
有田 秀穂 著

人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経―その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もができる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。



A5判・並製・346頁・1600円＋税

有田秀穂
（ありた・ひでほ）

昭和23年（1948）東京都生まれ。東京大学医学部卒業。東海大学医学部助手、筑波大学基礎医学系講師、東邦大学医学部教授を経て、現在、東邦大学名誉教授。脳生理学者、医師。セロトニン道場代表。

主な内容

第1部　脳の活性化とは
坐禅とセロトニン
ストレスとしごき
空海はセロトニン活性の達人
『弓と禅』に学ぶ身体トレーニング
沢庵の「不動智」とワーキングメモリー
不動明王と心の三原色
『弓と禅』に学ぶ無意識の自己意識
悪夢を消すには？
精進料理とセロトニン合成
「茶の湯」とセロトニン的生活
「自然に体が動いた」を脳科学で解く
勝海舟の「明鏡止水の心」を脳科学する
「武道の礼法」は社会脳を育む
相撲の「四股」は品性を育む
書道も心技体の人間修行
アンドロゲンと闘争心
日本の祭にはセロトニンがたっぷり
スキンシップとオキシトシン
空手の稽古は坐禅修行に通じる
脳は「丹田呼吸法」をどう操るか
試合における最適な覚醒状態
サイエンスは「気」をどこまで解明したか
仙人術を脳科学する
第2部　対談「武道で脳を活性化しよう」
日本武道館会長　松永　光
東邦大学名誉教授　有田　秀穂
…他

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本の武道

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

好評発売中！

日本武道館 編

一千数百年の歴史を有する武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ充実した巻末の資料編!!

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、各武道統括団体の全面協力によって完成!!

（B5判・上製・箱入・526頁）

≪目次≫

序章
刊行の辞 … 塩川正十郎 日本武道館・日本武道協議会会長
刊行にあたって … 松永 光 日本武道館理事長
武道のすすめ … 養老孟司 東京大学名誉教授
武道憲章（「武道憲章」「武道憲章英訳文」「こども武道憲章」）
カラー口絵（日本武道館、9武道＋日武協30年のあゆみ）

第1章 日本の武道
第1節 日本の武道 …… 杉江正敏 大阪大学教授
第2節 武士道から武道へ … 菅野覚明 東京大学大学院教授
第3節 武道の近代化・嘉納治五郎師範の教え … 村田直樹 講道館図書資料部長
第4節 武道の魅力 …… 大保木輝雄 埼玉大学教授
第5節 学校武道の歴史 … 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道の教育力 …… 菅野 純 早稲田大学教授
第7節 日本武道館 …… （財）日本武道館

第2章 日本の古武道
第1節 日本の古武道
第2節 古武道の技と心 … 横瀬知行 古流武術研究家

第3章 現代の武道
第1節 柔 道 …… （財）全日本柔道連盟
第2節 剣 道 …… （財）全日本剣道連盟
第3節 弓 道 …… （財）全日本弓道連盟
第4節 相 撲 …… （財）日本相撲連盟
第5節 空手道 …… （財）全日本空手道連盟
第6節 合気道 …… （財）合気会
第7節 少林寺拳法 …… （財）少林寺拳法連盟
第8節 なぎなた …… （財）全日本なぎなた連盟
第9節 銃剣道 …… （社）全日本銃剣道連盟

第4章 組織・研究機関
第1節 日本武道協議会
第2節 全国都道府県立武道館協議会
第3節 日本武道学会
第4節 日本古武道協会
第5節 武道学科等設置大学 ①国際武道大学 ②国士舘大学 ③東海大学 ④日本体育大学 ⑤鹿屋体育大学 ⑥中京大学 ⑦天理大学 ⑧筑波大学

第5章 資料編
第1節 役員名簿・組織図
第2節 日本武道協議会武道功労者一覧
第3節 全日本選手権大会優勝者一覧
第4節 年表「武道・近代百四十年の歩み」中村民雄 福島大学教授
第5節 学校体育における武道の変遷 本村清人 東京女子体育大学教授
第6節 武道主要参考図書

（現職・法人名は刊行時）

編集・発行 日本武道館
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第49回全日本青年銃剣道大会

●団体戦青年第１部

15即連A（香川）が初優勝

青年第１部決勝・大将戦＝15即連A・田嶋（航・左）が40普連A・池田を攻める

第49回全日本青年銃剣道大会（主催＝全日本銃剣道連盟）が８月２日、日本武道館で開催された。

大会は団体戦青年第１部（172チーム、選手・監督673名）、団体戦青年第２部（190チーム、選手・監督697名）、女子個人戦（選手144名）の３部門で競われた。

団体戦青年第１部は第15即応機動連隊A（香川）が、第２部は第20普通科連隊（山形）がともに初優勝を飾った。女子個人戦は、川島真里子（第３特科隊・旧姓奥田）が念願の２連覇を達成した。

■団体戦（３人制）

トーナメント制で争われ、各試合３分三本勝負、時間内に勝負がつかない場合は判定により勝敗を決し、勝者の多いチームを勝ちとした。

▽青年第１部

決勝戦には、15即連A（香川）と昨年準優勝の40普連A（福岡）が駒を進めた。

先鋒戦、15即連A・増本と40普連A・押川の対決。序盤からお互い激しく攻め合うも、技はなかなか決まらない。そのまま時間切れとなり、判定へ。結果は、増本に旗が３本上がり、15即連Aが先勝する。

中堅戦は15即連A・田嶋（啓）と40普連A・柴田との対戦。試合中盤、一気に田嶋との間合を詰めた柴田が勢いよくのどを決め、一本。柴田がリードを保ったまま、中堅戦が終了。勝負の行方は大将戦へ。

大将戦、15即連A・田嶋（航）と40普連・池田との対決。互いに序盤から間合を詰める。田嶋は何度も鋭い突きを繰り出すも、池田はそれを上手く捌き、一本を与えない。その後もお互い攻守を続けるも、有効な突きはなく、時間切れ。判定は、果敢に攻め続けた田嶋に旗が３本上がり、15即連Aが初優勝を飾った。

団体戦青年第１部優勝＝15即連A

青年第２部決勝・大将戦＝20普連・嘉藤（左）が下胴を決める

女子個人戦決勝＝川島（左）が安部に２本目の上胴を決める

◎優勝＝15即連A・南脇省吾監督

「最初は本当に動きが悪く、すぐ負けると思いましたが、試合を追うごとにどんどん動いてきて、勝ち上がることができました。次は都道府県対抗に向けて隊を鍛えあげていきたいと思います」

▽青年第２部

決勝戦は、ともに初優勝を狙う20普連（山形）と普教連A（静岡）の対決。先鋒戦、20普連・西上と普教連A・岩根が対戦。試合序盤、西上が相手の隙を狙い、上胴を決める。その後、勢いにのった西上は守りに入った岩根に再び上胴を決め、二本勝ち。20普連がリードする。

続く次鋒戦、20普連・安田と普教連A・金子の対戦。お互い序盤から激しく攻め合うも、一本が決まらない。そのまま時間切れとなり、判定へ。旗は赤が3本上がり20普連・安田の判定勝ち。この時点で20普連の優勝が決まる。

大将戦は20普連・嘉藤と普教連A・佐藤の対決。佐藤が意地を見せ、上胴で先取するも、嘉藤が上胴を決め、同点に。その後、嘉藤は果敢に佐藤を攻め、佐藤に下胴を決めて二本勝ち。3―0で20普連が初優勝を飾った。

◎優勝＝20普連・小林陽介監督

「練習した成果を各人が出すことができ、本当に嬉しいです。なかなか厳しいブロックだったのですが、よく選手が頑張ってくれたと思います。選手一人ひとりが意識を持っていたので勝利することができました。これからも結果が残せるよう頑張っていきます」

■女子個人戦

決勝戦は、初優勝を狙う安部朝香（西部方面特科隊）と連覇がかかる川島真里子（第3特科隊、旧姓奥田）の対決となった。

団体戦青年第２部優勝＝第20普連（山形）

試合序盤から、両者積極的に攻め合う。試合開始1分、安部が先に技を仕掛けるも、川島はそれを上手く躱（かわ）す。そして、その隙を狙って川島が上胴を決め、先制する。連覇に大手をかけた川島は勢いに乗り、試合再開のわずか10秒後、安部に鋭く上胴を突き、一本。昨年からの目標であった連覇を見事達成した。

◎優勝＝川島真里子（かわしままりこ）（第3特科隊）

「去年も優勝していたので、連覇を達成することができて嬉しいです。試合は狙えるところは狙っていこうと思っていたので、上手く技が決まりました。次の目標は、9月に都道府県大会があるので、兵庫代表として出場し、優勝したいです」

女子個人戦優勝＝川島真里子（第３特科隊）

役に立つ少年剣道指導法

山神眞一 著

（香川大学教授・同学部長、医学博士、剣道教士八段）

好評発売中

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。現代の少年剣道が抱える様々な問題点に対して、長年教育現場で培った筆者の視点から解決の糸口を探っていく。少年剣道指導者必読の一書。

付録のDVDには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間115分を超える映像で紹介。

解説DVD付属！

A5判・並製・256頁・DVD付・本体2400円＋税

目　次

第一章　一眼～子どもと少年剣道の今を眼る
現代の子どもの体と心を見つめ直す／少年剣道の現状と課題／少年剣道に対する保護者の声

第二章　二足～少年剣道の足跡とこれから
現代剣道復活の道程とこれからの少年剣道／剣道の国際化と少年剣道の未来／少年剣道拡大の秘密を探る

第三章　三胆～指導者の胆力を求めて
少年剣道における指導者の在り方／文武両道と少年剣道／コミュニケーション力と人材育成の極意

第四章　四力～技の力を学ぶ
剣道のアイスブレーキング／礼法について～立礼と座礼／木刀・竹刀を使用した構えと素振りの対人的指導法／切り返しの段階的指導法／基本打突の打ち方と打たせ方／連続技の打ち方と打たせ方／払い技の打ち方と打たせ方／引き技の打ち方と打たせ方

第五章　残心
海外での剣道事情／中学校における剣道授業

あとがき

編集・発行　公益財団法人　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

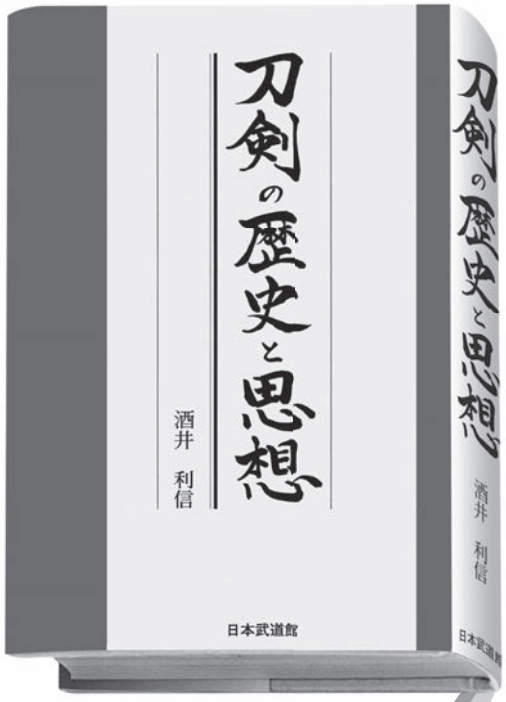
◎好評発売中

刀剣の歴史と思想

筑波大学教授　酒井利信　著

四六判・上製・346頁・本体2400円＋税

刀剣を単なる武器としてではなく、神聖なものとして捉える思想とは何か―



日本独自の展開をみせてきた刀剣に関する思想を、中国、朝鮮など、東アジアにまでルーツをたどりながら、確かな史料を基に考察。古事記・日本書紀に語られる神話、平家物語・太平記などにみられる三種の神器にまつわる記述、鹿島新當流、示現流に伝わる伝書といった歴史的文献を読み解き、日本刀剣思想のオリジナリティを浮かび上がらせる。

題字揮毫―鹿島神宮　鹿島則良　宮司

目　次

序章
第一節　探求の旅をはじめるにあたって
第二節　刀剣の歴史
第一章　刀剣思想の源流
第一節　古代中国の宝剣伝説　太阿の剣
第二節　干将莫耶の宝剣伝説
第三節　高祖の斬蛇剣
第四節　道教と剣
第五節　古代朝鮮の刀剣思想
第二章　神話的イメージの形成
第一節　神話的世界の形成と剣神の誕生
第二節　天より降る剣　師霊剣
第三節　天地を繋ぐ剣　草薙剣
第三章　信仰のなかの刀剣思想
第一節　祀る剣　祀られる剣
第二節　辟邪の呪剣
第三節　うけいの呪術と剣
第四節　修験道と剣
第四章　中世における刀剣思想
第一節　三種の神器の不思議
第二節　『平家物語』にみる三種の神器
第三節　『太平記』が語る草薙剣像
第五章　近世剣術における刀剣思想
第一節　剣術伝書に語られる日本神話
第二節　新当流にみる霊剣の技術
第三節　示現流にみる心の利剣
第四節　近世剣術における刀剣思想の展開
第六章　近現代における刀剣思想
第一節　近代以降の刀剣思想
第二節　古代と現代を繋ぐ刀剣
～鹿島神宮日本刀奉納鍛錬～
終　章　～稽古照今～

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第10回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会

福岡県が8年ぶりに優勝

優勝＝福岡県

第10回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会（主催＝全日本剣道連盟・読売新聞社、後援＝日本武道館）は7月14日、日本武道館で開催された。大会は年齢別に1チーム5名で編成された団体戦で行われ、47都道府県の選手たちが覇を争った。

決勝は、福岡県と熊本県の九州勢対決となり、代表者戦で福岡県の大将・川野薫が、面で一本を奪って勝利し、福岡県に8年ぶりとなる2度目の優勝をもたらした。

チームは、先鋒が高校生、次鋒が大学生、中堅が18歳以上35歳未満（高校生・大学生を除く）、副将が35歳以上45歳未満、大将が45歳以上で編成。試合時間は5分で3本勝負。勝者数、総本数が同じ場合は大将による代表者戦を行い、時間無制限の一本勝負で勝敗を決する。

◇

■準決勝①

	福岡県	2―0	長崎県
先鋒	妹尾舞香	メ―	松田美結女
次鋒	佐々木梨奈	ド×コ	杉本唯子
中堅	糸山亜美	×	渡邉綾乃
副将	徳留由樹	メ―	中村久美子
大将	川野　薫	×	野上麻佐代

先鋒戦で出場の福岡・妹尾は、今年の世界剣道選手権大会に高校生として史上2人目の日本代表に選出され、注目が集まる中、ここまで全試合で勝利し、チームに貢献。期待通りの活躍で一本勝を収める。次鋒戦は長崎・杉本と福岡・佐々木が互いに一本を取り引分。中堅戦は互いに決め手を欠き、引分に終わる。副将戦は長崎・中村が小手を打ってきたところを福岡・徳留が面で合わせ、一本勝。大将戦は福岡・川野が長崎・野上の上段の攻めに苦戦するも引き分け、2―0で福岡が決勝へ進んだ。

■準決勝②

	熊本県	3―1	岡山県
先鋒	久保藍夏	コメ―	根来優羽
次鋒	桑野こゆき	コ―	岡崎莉子
中堅	渡邊タイ	ド×コ	横道架衣
副将	緒方有希	メ―	三宅麻衣子
大将	村下美穂	―メ	忠政美樹

決勝・代表者戦＝福岡・川野薫（右）が面で攻める

決勝・先鋒戦＝福岡・妹尾舞香（左）が先勝

熊本の先鋒・久保が小手と面で勝利。続く次鋒戦は、熊本・桑野が小手を決めて一本勝し、決勝進出に王手をかける。中堅戦は引分となるが、副将戦は熊本・緒方が試合の主導権を握り、終盤に面で一本勝を収め、熊本が決勝進出を決めた。

◇

■決勝

	福岡県	1代—1	熊本県
先鋒	妹尾舞香	メ—	久保藍夏
次鋒	佐々木梨奈	×	桑野こゆき
中堅	糸山亜美	—コ	渡邊タイ
副将	徳留由樹	×	緒方有希
大将	川野　薫	×	村下美穂
代表	川野　薫	メ—	村下美穂

先鋒戦は、福岡・妹尾と熊本・久保の対決。久保の上段の構えからの攻めに防戦一方の妹尾。しかし終了間際に同時に面を打ち込むと、一瞬早く妹尾の面が決まり、福岡が先勝する。

次鋒戦は、福岡・佐々木と熊本・桑野の対決。両者序盤から激しい打ち合いを展開。互いに惜しい場面もあったが、両者決め手を欠き、旗は上がらず引分に終わる。

中堅戦は、福岡・糸山と熊本・渡邊が対戦した。開始直後から接近戦の膠着（こうちゃく）状態だったが、1分過ぎに渡邊が面を仕掛ける。しかし、旗が1本しか上がらず、有効打突として認められない。渡邊は、その後も小手、面で糸山を攻め立て、3分過ぎに一瞬の隙をつき、小手を決め、一本を先取。そのまま終了を迎え、熊本が1対1の同点に追いつく。

副将戦は、福岡・徳留と熊本・緒方の対決。両者我慢の時間が続く。試合中盤、徳留の鋭い小手が相手を捉えたかに思えたが旗は上がらず、そのまま引分で終了。

勝負の行方は福岡・川野薫と熊本・村下美穂の大将戦に委ねられた。村下は序盤で遠間からの面を狙い、踏み込むが決まらない。川野も守りながら機会を窺（うかが）い、緊迫した時間が過ぎていく。本戦の5分が終了し、勝負は代表者戦へ。

代表者戦に入り、10分を超える試合に終止符を打ったのは川野。思い切りよく飛び込んだ面がきれいに決まり、赤旗3本が揃い、一本。

福岡県が8年ぶり2度目の優勝を果たした。

◎優勝＝福岡県・橋本信之監督

「まさか優勝できるとは思っていませんでした。決勝戦は代表者戦までもつれ込みましたが、全員で繋（つな）ぐことを意識し、何とか勝つことができ、最高の形で大会を終えられました。マークされていた妹尾も期待に応え、全勝してくれました。強化については、県連が4月から強化練習会を開催し、国体選手の強化や特に女子強化を熱心に取り組んでくれました。高校生が男女で結果を残しているので成年でも結果を残せるようにと成年強化を始め、今回はその成果が出たと思います」

【大会結果】

◎優　勝＝福岡県
○準優勝＝熊本県
▽第3位＝長崎県
　　岡山県

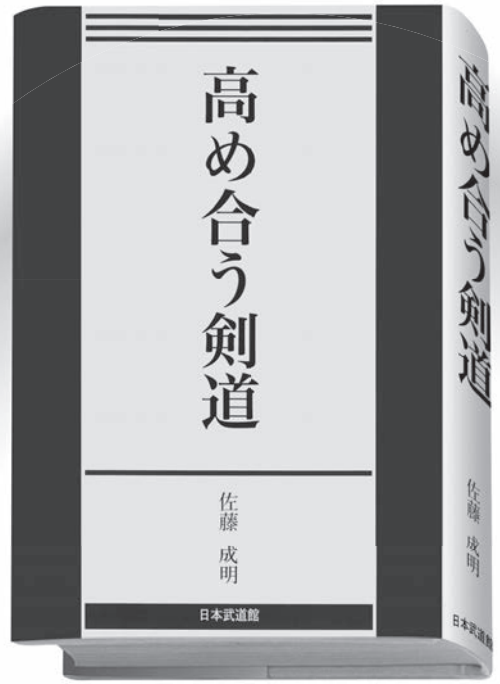
◇優秀選手

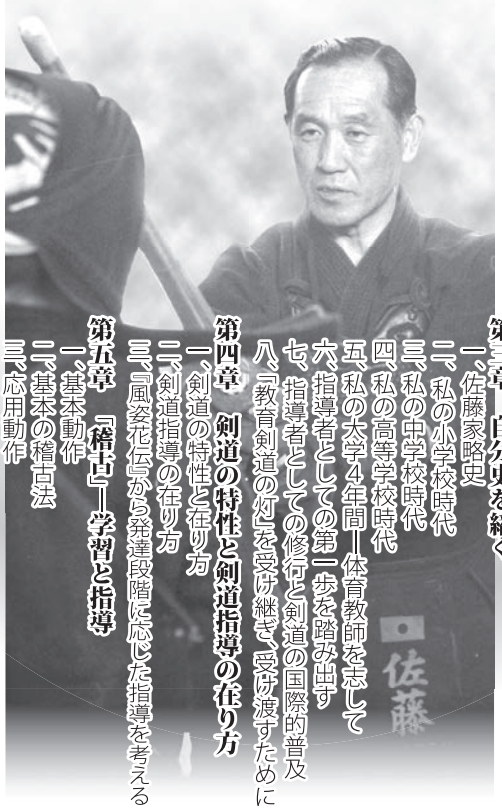
尾崎　麻美（京都府）
松田　有可（高知県）
市村麻美子（埼玉県）
下川　美佳（鹿児島県）
野上麻佐代（長崎県）
忠政　美樹（岡山県）
鈴木　亜紀（東京都）

◎好評発売中

高め合う剣道

筑波大学名誉教授　佐藤 成明 著





〝互いに学び高め合う教育剣道のために〟

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修錬で大事な事柄を綴る。

これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁・本体2400円＋税

目次

第一章　剣道小史―剣技・剣術・剣道の歴史
一、奈良時代～江戸中期―闘争の技術から竹刀剣術の誕生まで
二、江戸時代中期以降～現在―剣術から剣道へ
第二章　剣道と教育
一、教育に関する基礎知識
二、「三育思想」
三、「教育基本法」と「学習指導要領」
四、「礼」の教育について
第三章　自分史を繙く
一、佐藤家略史
二、私の小学校時代
三、私の中学校時代
四、私の高等学校時代
五、私の大学4年間―体育教師を志して
六、指導者としての第一歩を踏み出す
七、指導者としての修行と剣道の国際的普及
八、「教育剣道の灯」を受け継ぎ、受け渡すために
第四章　剣道の特性と剣道指導の在り方
一、剣道の特性と在り方
二、剣道指導の在り方
三、「風姿花伝」から発達段階に応じた指導を考える
第五章　「稽古」―学習と指導
一、基本動作
二、基本の稽古法
三、応用動作
四、稽古への取組方と方法
五、剣道における形の重要性
第六章　試合について
一、試合(一)――先達の文献から
二、試合(二)――剣道の「術理」
終　章　高め合う剣道
一、稽古の意義と心得
二、剣道に関する古今の訓え
三、互いに学び高め合う教育剣道のために

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ：THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

高め合う剣道

筑波大学名誉教授
佐藤 成明 著

（四六判・上製・564頁）

刀剣の歴史と思想

筑波大学大学院准教授
酒井 利信 著

（四六判・上製・346頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

武道における身体と心

神戸学院大学教授
前林 清和 著

（四六判・上製・370頁）

禅の思想と剣術

北海道大学大学院教授
佐藤錬太郎 著

（四六判・上製・386頁）

今、なぜ武道か

―文化と伝統を問う―

福島大学教授
中村 民雄 著

（四六判・上製・370頁）

人を育てる剣道

剣道範士八段
角　正武 著

（四六判・上製・268頁）

武道 過去・現在・未来

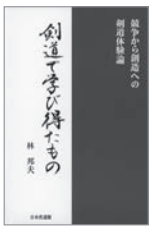
国際武道大学教授
田中　守 著

（四六判・上製・274頁）

兵法家伝書に学ぶ

文教大学教授
加藤 純一 著

（四六判・上製・344頁）



剣道で学び得たもの

中京大学教授
林　邦夫 著

（四六判・上製・298頁）

第53回全国道場少年剣道大会

●小学生の部

昭島中央剣友会（東京）が3度目の優勝

決勝・大将戦＝昭島中央・池田（右）が出ばな面を決める

7月24日・25日、日本武道館にて第53回全国道場少年剣道大会（主催＝全日本剣道道場連盟、後援＝日本武道館ほか）が開催された。小学生の部では、昭島中央剣友会（東京）が福岡如水館（福岡）を1―0で降し、3度目の優勝に輝いた。中学生の部では、東松舘道場（東京）が昭島中央剣友会（東京）を接戦の末1―0で破り、3年ぶり6回目の優勝を飾った。

◇

大会は5人制の団体トーナメント戦。小学生の部560チーム（初日）と中学生の部440チーム（2日目）の2部門でそれぞれ覇を競った。

■小学生の部（24日・560チーム）

準決勝に勝ち上がったのは、昭島中央剣友会（東京）、福岡一信館（福岡）、福岡如水館（福岡）、洗心道場（愛知）の4チーム。福岡一信館以外は昨年もベスト4に進出している。

準決勝第1試合では、昭島中央剣友会と福岡一信館が対戦。先鋒・次鋒戦と引き分け、中堅戦は昭島中央・大越が会心の小手を決め、貴重な勝ち星を上げた。昭島中央は副将・大将戦と引き分けて1―0で、優勝を目指し決勝へと進んだ。

準決勝第2試合では、福岡如水館（福岡）と昨年優勝の洗心道場（愛知）が対戦した。如水館は先鋒、次鋒戦と続けて二本勝を果たす。中堅戦を引き分けて、副将戦で如水館・矢野が洗心・森島から面を2本決めて、勝利した。

■決勝

昭島中央剣友会1―0福岡如水館

先鋒　橋本和樹　×　森　大颯
次鋒　久保木暸ココ―　石橋雄大
中堅　大越　心　×　菊池京花
副将　橋本唯秀　ド×コ　矢野佑紀
大将　池田朝陽　メ×ド　林　晃毅

2年ぶり3度目の優勝を目指す昭島中央剣友会と上位常連の福岡如水館の対戦となった。

先鋒戦は、互いに有効打突のないまま引き分けて、次鋒戦では序盤、如水館・石橋の手元が上がり、昭島中央・久保木が小手を決めた。勢いに乗る久保木は再び出ばな小手を決めて、二本勝を収めた。中堅戦を0―0で引き分け、副将戦も1―1で引き分けて、昭島中央が一歩リードで大将戦をむかえた。

後がない如水館・林は開始早々に、体格差で勝る昭島中央・池田に対して、鋭い返し胴を決めた。もう一本取って代表者戦に繋げたい林。しかし、池田が林の面の出ばなに面を決めて試合は終了。大将戦は1―1で引き分けて、昭島中央剣友会が福岡如水館を1―0で降し、2年ぶり3度目の優勝に輝いた。

決勝・次鋒戦＝昭島中央・久保木（左）の2本目の小手

優勝した昭島中央剣友会。左端が三浦監督

◎優勝＝昭島中央剣友会
三浦昇一郎監督

▽今の気持ちを教えてください

「今までの優勝の中で一番ジーンときました。ただそれだけですね」

▽今回の勝因は何でしょう

「如水館とは今年初めての対戦でした。試合前に相手の情報は入れないようにしています。相手の特徴がわかっていたからといって勝てる訳ではありません。勝因はよくわかりませんね。今日はたまたま、上手くいっただけです。みんな気合が入っていたのですかね。5人がピカイチ強いという訳ではありません。何とかやりくりしながらここまで来れました。よく頑張ったと思います」

▽大会全体を通して辛かったことは

「全試合です。初戦からずっと厳しい試合が続きました。〝もうだめだ〟〝もうだめだ〟と思いながらここまで来ました。偶然がいくつも重なり勝てたのだと思います。胃に穴が空きました（笑）」

▽優勝したチーム・メンバーについて教えてください

「このチームは練習試合に行くと結構負けてしまいます。しかし大会では結構勝っております。ただ、今回は全国道場少年の大会ですからね。いくら何でもとは思いましたが、よくやりましたね、本当に。副将の橋本（唯）は病気で稽古できない時期がありました。それから復帰して、今日は頑張っておりました。引き分けて、大将の池田によく繋げたと思います」

▽普段の稽古の様子を教えてください

「普段は、60人くらいで、勝つために厳しい稽古をするのではなく、楽しい雰囲気で稽古を行うよう努めております」

▽では、なぜ楽しさを主体とした稽古で優勝できたのですか

「よくわかりません。なぜなんでしょうかね」

▽過去2回の優勝との違いは

「過去の優勝は呆気に取られていましたが、今回はなんだかジーンときましたね」

▽今後の目標は

「今日の試合はまぐれだと思って、次の試合も負けないようにやっていくだけです」

●中学生の部

東松舘道場（東京）が3年ぶり6度目の優勝

決勝・大将戦＝果敢に攻める東松舘道場・松尾（左）

■中学生の部（25日・440チーム）

準決勝に勝ち上がったのは、東松舘道場（東京）、昨年覇者の九好会（熊本）、昭島中央剣友会（東京）、昨年準優勝の福岡如水館（福岡）。

準決勝第1試合では、東松舘道場と九好会が対戦した。次鋒戦で東松舘・高村が九好会・福岡に面を決めて、東松舘が先制した。中堅戦を引き分けて、副将戦で東松舘・小山は九好会・鮫島を二本勝で破り、この時点で東松舘の勝利が確定した。続く大将戦では東松舘・松尾は胴で一本勝。東松舘道場は3―0で九好会を降し、3年ぶりとなる決勝の舞台へと進んだ。

準決勝第2試合では、昭島中央剣友会と福岡如水館が対戦した。先鋒戦は引分。続く次鋒戦で昭島中央・藤田が小手で先取する。負けじと如水館・若松も面を奪取する。時間一杯となり、1―1で引き分けた。中堅戦から大将戦まで両チームとも一本を奪えないまま引き分けて、代表者戦に突入した。開始直後、昭島中央・武石が電光石火の面で、早々に勝負を決めた。

準決勝第2試合・代表者戦＝昭島中央・武石（右）の面

■決勝

東松舘道場1―0昭島中央剣友会

先鋒　廣澤優樹　ド×メ　増森勇輝

次鋒　髙村慎之助　×　藤田快生

中堅　荒木千葵　×　大澤柾也

副将　小山　颯　×　大越充悟

大将　松尾瞳太ココーコ　武石融知

先鋒戦、東松舘・廣澤が引き胴で先取する。直後、昭島中央・増森も出ばな面で一本を奪った。試合はそのまま終了し、1―1で引き分けた。次鋒戦から副将戦までは引き分けて、勝負の行方は大将戦へと託された。

決勝・先鋒戦＝東松舘道場・廣澤（右）は1―1で引き分ける

序盤、東松舘・松尾が昭島中央・武石の隙をつき、小手を決めた。東松舘は貴重な一本を先取する。しかし再開直後、武石が負けじと出ばな小手を決めて、試合を五分に戻した。激しい攻防が続く中、再び松尾が虚を衝いた小手を決めて、二本勝を収めた。

大会の掉尾を飾るに相応しい接戦となった決勝戦。1―0で東松舘道場が昭島中央剣友会を制し、3年ぶり6度目の優勝を飾った。

優勝した東松舘道場。右から2番目が井上監督

◎優勝＝東松舘道場・井上亮監督

▽今の気持ちを教えてください

「今のメンバーを小学生の頃から見てきてましたが、このメンバーは昭島中央道場にずっと勝てませんでした。去年のこの大会でもベスト8で昭島中央に敗れています。このメンバーで優勝することができなかったので、中学生最後の舞台となった3年生を中心として…（涙ぐみ、言葉を呑み込む）、今大会ではみんな頑張ってくれました」

▽どんなチームですか

「ずっとこのメンバーでやっておりますので、お互いに助け合うことができ、チームワークがすごくいいですね」

▽ここに至るまでの稽古法を教えてください

「〝継続は力なり〟でずっと休むことなく、〝打倒！　昭島中央道場〟を目標に、コツコツと稽古してきました」

▽東松舘道場と昭島中央剣友会との関係を教えてください

「昭島中央とはいいライバル関係ですね。ともに東京でもありますし仲もいいです。目標とするチームです」

▽決勝での勝因を教えてください

「副将戦まで引分となりましたが、大将には松尾がいます。松尾になれば絶対勝てると信じてました」

▽最後に一言お願いします

「私自身は3年前に、今の高校生を日本一にさせていただいて、今日もこの子たちを日本一のチームへと導くことができました。こんなに嬉しいことはありません」

【大会結果】

■小学生の部

◎優　勝＝昭島中央剣友会（東京）

○準優勝＝福岡如水館（福岡）

▽第3位＝洗心道場（愛知）

福岡一信館（福岡）

■中学生の部

◎優　勝＝東松舘道場（東京）

○準優勝＝昭島中央剣友会（東京）

▽第3位＝九好会（熊本）

福岡如水館（福岡）

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

日本武道館の単行本

漫画家・別府大学教授
田代しんたろう　著

マンガ・武道のすすめ

（B5判・236頁）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

《目次》

序章　武道のすすめ
松永光（日本武道館）／高村正彦（武道議員連盟）／有松育子（文部科学省）
第1章　いざ！　武道の世界へ
第2章　柔道のすすめ
大澤慶己／長谷川博之／腹巻宏一／吉村和郎／山内直人
第3章　剣道のすすめ
森島健男／角正武／千田重光／井上茂明／小林知洋
第4章　弓道のすすめ
森永良雄／吉本清信／宇佐美義光／柴田猛／大和田正孝
第5章　相撲のすすめ
塔尾武夫／住吉和則／下村勝彦／安井和男
第6章　空手道のすすめ
金城裕／長谷川伸一／安里廣之／山本英雄／大石武士
第7章　合気道のすすめ
多田宏／磯山博／菅沼守人／珠玖仁
第8章　少林寺拳法のすすめ
合田清一／阿達美恵子／八巻哲／松浦哲也
第9章　なぎなたのすすめ
澤田花江／梶山武子／一川治子／左村美穂子／大津博美
第10章　銃剣道のすすめ
桑原正治／兼坂弘道／遠藤守／石川慎也／北村弘之
第11章　古武道のすすめ
竹内藤十郎（柔術）／笹森建美（剣術）／加藤伊三男（槍術）／小笠原清忠（弓馬術）
日本武道館の歴史

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp
お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

今、なぜ武道か
—文化と伝統を問う—

福島大学教授
中村 民雄 著
（四六判・上製・370頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編
翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット
（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道
子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー
菅野 純 著
（四六判・上製・410頁）

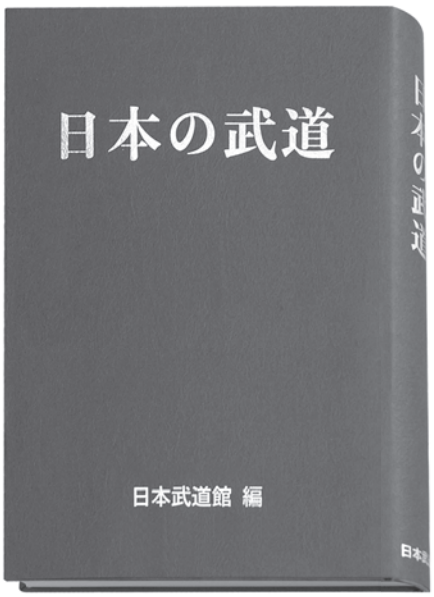
大先輩に聞く

月刊「武道」記者
田谷 将俊 著
（四六判・上製・376頁）

日本の武道のすべてを網羅した武道関係者必携の書

日本の武道

日本武道館 編



（B5判・上製・箱入・526頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・
少林寺拳法・なぎなた・銃剣道をはじめ、
各武道統括団体の全面協力によって完成!!

一千数百年の歴史を有する
武道の全容をこの一冊に集大成!!
武道小百科事典としても役立つ
充実した巻末の資料編!!

第29回全国都道府県中学生相撲選手権大会

団体 鳥取県が初優勝

個人 無差別級 西加陽斗（鹿児島） 軽量級 井ノ上豪志（和歌山） が制す

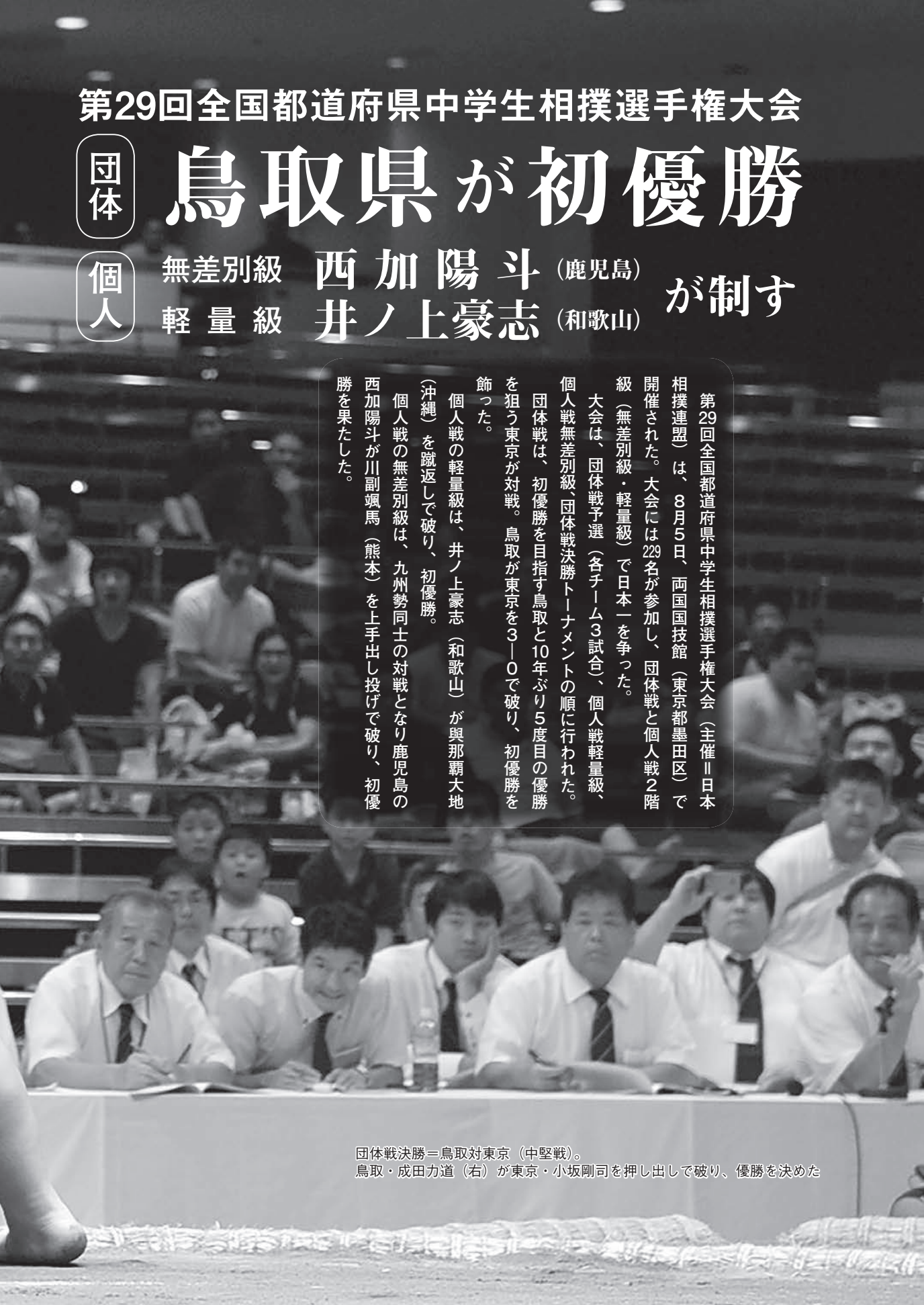
第29回全国都道府県中学生相撲選手権大会（主催＝日本相撲連盟）は、8月5日、両国国技館（東京都墨田区）で開催された。大会には229名が参加し、団体戦と個人戦2階級（無差別級・軽量級）で日本一を争った。

大会は、団体戦予選（各チーム3試合）、個人戦軽量級、個人戦無差別級、団体戦決勝トーナメントの順に行われた。

団体戦は、初優勝を目指す鳥取と10年ぶり5度目の優勝を狙う東京が対戦。鳥取が東京を3―0で破り、初優勝を飾った。

個人戦の軽量級は、井ノ上豪志（和歌山）が與那覇大地（沖縄）を蹴返しで破り、初優勝。

個人戦の無差別級は、九州勢同士の対戦となり鹿児島の西加陽斗が川副颯馬（熊本）を上手出し投げで破り、初優勝を果たした。



団体戦決勝＝鳥取対東京（中堅戦）。
鳥取・成田力道（右）が東京・小坂剛司を押し出しで破り、優勝を決めた

東京

軽量級・決勝＝井ノ上（左）が意表をつく蹴返しで、優勝を決めた

軽量級・準決勝＝井ノ上対伊藤。井ノ上（左）が伊藤の攻めを凌ぐ

軽量級・準決勝＝與那覇対佐藤。與那覇（奥）が土壇場で逆転勝ち

■個人戦・軽量級

軽量級には各都道府県の代表47名が出場し、トーナメント方式で争われた。ベスト8には、栄陽翔（鹿児島）、井ノ上豪志（和歌山）、櫻庭燎（青森）、伊藤拓海（福岡）、與那覇大地（沖縄）、村岡皓輔（千葉）、佐藤理貴（福島）、草野音（熊本）が勝ち上がった。

▽準々決勝

栄　陽翔　送り倒し○　井ノ上豪志
櫻庭　燎　寄り切り○　伊藤拓海
與那覇大地　○寄り切り　村岡皓輔
佐藤理貴　○腕　捻り　草野　音

井ノ上が栄の後ろに回り込み、送り倒して勝利。

伊藤は、櫻庭の脇に潜り、両手で廻しを掴み、一気に寄り切った。

與那覇は、立合いで低く当たり村岡に何もさせずに寄り切った。

佐藤は、動き回る草野を掴まえ、腕捻りで勝負を決めた。

▽準決勝

井ノ上豪志　○下手投げ　伊藤拓海
與那覇大地　○掬い投げ　佐藤理貴

井ノ上対伊藤の対決は、両者土俵中央で動きが止まる。先に動いたのは伊藤。井ノ上は伊藤の厳しい攻めを凌ぎ切り、下手投げで勝利した。

與那覇対佐藤の対戦。佐藤は立合いで有利な体勢を作り、一気に勝負に出て、與那覇を土俵際まで追い込む。佐藤が仕掛けるも與那覇が反応し、掬い投げに移行して、佐藤の頭を土俵に着け、逆転勝利。

▽決勝

井ノ上豪志　○蹴　返　し　與那覇大地

立合いで互いに低く当たり、土俵中央でがっぷり四つに。與那覇が押し込もうとするが、井ノ上は右下手を掴み、堪える。井ノ上が次の瞬間、左足で蹴返しを放ち、與那覇のバランスを崩して勝利を手にした。

◎個人戦・軽量級優勝＝井ノ上豪志（和歌山県）

「今年は無差別に挑戦しようと思っていましたが、思ったように体重が増えず、監督と相談して軽量級での出場を決めました。

今日の山場は準決勝でした。途中で完全に動きが止まってしまい、かなり焦りました。

小学4年で出場したわんぱく相撲で負けたことが悔しくて本格的に稽古を始めました。体が大きくないので、これからは炎鵬のような相撲を取ることが目標です。箕島高校の相撲部で頑張りたいと思います」

心技体 人を育てる総合誌
月刊 武道

■個人戦・無差別級

無差別級には団体予選3試合で2勝以上を上げた66選手が出場した。

準々決勝に勝ち進んだのは、落合哲也（鳥取）、竹田章一郎（栃木）、川副颯馬（熊本）、白川大翔（香川）、角田虎紀（石川）、西加陽斗（鹿児島）、アルタンゲレル・ソソルフー（鳥取）、手計太希（埼玉）の8名。

無差別級・決勝＝西加（左）が上手出し投げを決めて勝利

▽準々決勝

落合哲也　叩き込み○　竹田章一郎
川副颯馬　○押し出し　白川大翔
角田虎紀　寄り切り○　西加陽斗
アルタンゲレル・ソソルフー　寄り切り○　手計太希

竹田は、落合が前に出てきたところを叩き込んで勝利した。

川副は右手を差した直後、一気に前に出て、白川を押し出した。

西加は立合い出遅れるも冷静に対応し、角田を寄り切り、準決勝へ。

手計対アルタンゲレルは、土俵中央でがっぷり四つに。手計が吊り出すように寄り切った。

無差別級・準決勝＝竹田対川副。
川副（左）が一瞬の隙を逃さず、押し倒して勝利

▽準決勝

竹田章一郎　押し倒し○　川副颯馬
西加陽斗　○下手投げ　手計太希

竹田対川副の対決。立合いで竹田が突っ張り、川副を押し込んでいく。竹田は休まず攻めるも土俵際で足を滑らせ、最後は川副に押し倒される形になる。竹田が土俵下まで転げ落ち、川副が決勝進出を果たす。

西加対手計の一戦。立合いは互角。身長で劣る西加は懐に潜り、右手で後ろ廻しを取りにいくと同時に左を差す。そのまま豪快に左下手投げを決め、決勝に駒を進めた。

無差別級・準決勝＝西加対手計。
西加（上）が豪快に下手投げを決める

▽決勝

川副颯馬　上手出し投げ○　西加陽斗

立合いを制したのは川副。一気の寄りで西加を追い込む。土俵際、後がない西加は、川副を上手くいなし、横につく。西加は右手で廻しを取って、そのまま一気に川副を土俵の外へ。嬉しい初優勝を飾った。

◎個人戦・無差別級優勝＝西加陽斗（鹿児島県）

「まさか自分が優勝出来るとは思っていませんでした。今でもまだ信じられません。

決勝の相手は、九州大会などで何度か対戦しましたが、今まで一回も勝ったことがありませんでした。立合いで押し込まれましたが、体が自然に反応してくれました。

将来は、学校の先生になりたいと思っています。今後は鹿児島商業高校に進学する予定です」

団体戦準決勝＝鳥取対兵庫（大将戦）。
鳥取・アルタンゲレル（右）が寄り切って勝利

団体戦準決勝＝東京対栃木（中堅戦）。
東京・小坂（右）が引き落としで決勝進出を決める

団体戦決勝＝鳥取対東京（先鋒戦）。
鳥取・落合（手前）が一気に押し出して先勝する

■団体戦

▽準々決勝

鳥　取　3―0　高　知
兵　庫　3―0　富　山
鹿児島　1―2　東　京
新　潟　1―2　栃　木

鳥取は盤石の相撲で、高知を3―0で破り、準決勝に進んだ。

兵庫は、全員100kg超えの大型チーム。体格を活かし、富山に完勝。

鹿児島対東京の対戦。東京の先鋒・市川、中堅・小坂が勝ち星を上げ、2連勝で準決勝進出を決めた。

栃木は先鋒戦を落とすも、中堅戦・大将戦で連勝し、逆転で準決勝に進出した。

▽準決勝

鳥　取　2―1　兵　庫
落合哲也　○叩き込み　神﨑大貴
成田力道　押し出し○大辻理貴
アルタンゲレル・ンンルフー○寄り切り　八木裕真

先鋒戦は鳥取・落合が絶妙なタイミングで叩き込みを決め、先勝する。中堅戦は激しいぶつかり合いの末、兵庫・大辻が鳥取・成田を突き出し、同点に追いつく。大将戦は、鳥取・アルタンゲレルが50kgの体重差をものともせず、寄り切って、鳥取が初の決勝進出を決めた。

東　京　2―1　栃　木
市川太陽　○寄り倒し　相馬伸哉
小坂剛司　○引き落とし　木村丈一郎
滝本哲治　突き出し○　竹田章一郎

先鋒戦は栃木・相馬が低く当たるも東京・市川が左を差し、一気に寄り倒して先勝。中堅戦は東京・小坂の力強い押しを栃木・木村が押し返すも、小坂が引き落として、東京が2連勝で3年ぶりの決勝へ。

▽決勝

鳥　取　3―0　東　京
落合哲也　○押し出し　市川太陽
成田力道　○押し出し　小坂剛司
アルタンゲレル・ンンルフー○送り出し　滝本哲治

先鋒戦は鳥取・落合が東京・市川を一気に土俵外へ押し出して勝利する。続く中堅戦は、鳥取・成田が先鋒戦の勢いそのままに東京・小坂を押し出して、優勝を決めた。大将戦、鳥取・アルタンゲレルも東京・滝本を送り出して、初優勝を3―0の完勝で飾った。

団体戦優勝＝鳥取県

◎団体戦優勝＝
鳥取県・倉本慎一郎（くらもとしんいちろう）監督

「今回は優勝できるとは思っていませんでした。部員は、3年が1人なので2年を2人起用するほかありませんでした。2年の2人は個人戦でも調子が上がらず、とにかく毎試合が勝負でした。チームワークが良く、お互いをカバーしあい、一つ一つの試合を勝ち進むことで波に乗ることが出来ました。

特に3年の落合は、口数は少ないが、しっかりとチームを引っ張ってくれました。

また、決勝戦の前にインターハイで鳥取城北高校が準優勝したとの情報が入り、県勢の活躍が選手たちにとって良い刺激になったと思います」

【大会結果】

■団体戦
◎優　勝＝鳥取県
○準優勝＝東京都
▽第3位＝兵庫県
　栃木県

■個人戦・無差別級
◎優　勝＝西加陽斗（鹿児島）
○準優勝＝川副楓馬（熊本）
▽第3位＝竹田章一郎（栃木）
　手計太希（埼玉）

■個人戦・軽量級
◎優　勝＝井ノ上豪志（和歌山）
○準優勝＝與那覇大地（沖縄）
▽第3位＝伊藤拓海（福岡）
　佐藤理貴（福島）

心技体 MONTHLY MAGAZINE THE "BUDO"
人を育てる総合誌
月刊 武道
武道界のオピニオンリーダー誌
教育・健康・教養を三本柱に、役に立つ「武道人間学」の情報を満載!
毎月28日発行　定価545円(税込)
年間購読6,540円(税・送料込)

好評連載中
四股探求の旅
……高砂部屋マネージャー　増田哲博

第一回　〝腰を割る〟とは?

四股の基本の構えが〝腰割り〟です。四股は、腰割りの構えから、足を上げ、腰割りの構えに戻る動作を左右交互にくりかえします。なぜ腰を割るのか? そもそも腰を割るとはどういうことなのか? 日本人にとって、相撲にとって、〝腰〟という言葉はどういう意味をもつのか? 〝相撲は腰で取れ〟という格言が示す通り、相撲の基本は〝腰〟です。その〝腰〟を〝割る〟ことについて探求していきます。

好評連載中

道場を訪ねて
……古流武術研究家　横瀬知行

日本人の心根を考える
……鎌倉女子大学教授 東京大学名誉教授　竹内整一

武道の可能性を探る
各界有識者がさまざまな角度から武道に光を当てる。

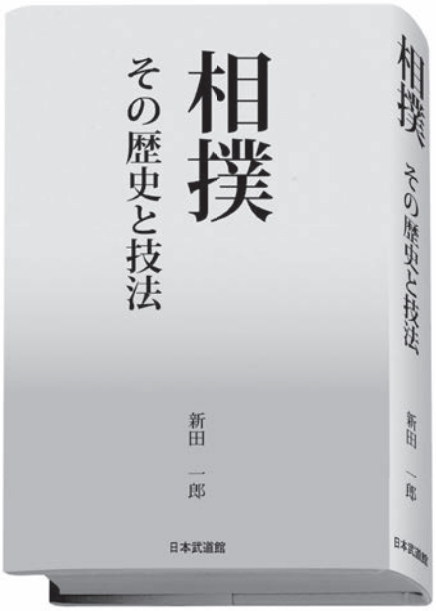
マンガ・武道のすすめ
…漫画家・別府大学客員教授　田代しんたろう

文士の一分
……作家　増田俊也

日本武道館発行　単行本のご紹介

相撲 その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究科教授
新田一郎 著



四六判・上製・422頁・2,400円＋税

相撲の成立から現状を経て将来像へ

相撲の成立から、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。
「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。

マンガ・武道の偉人たち

漫画家・別府大学客員教授 **田代しんたろう** 著
B5判・302頁・本体1,000円＋税

収録偉人

嘉納治五郎（柔道）
高野佐三郎（剣道）
阿波研造（弓道）
双葉山（相撲）
船越義珍（空手道）
植芝盛平（合気道）
宗道臣（少林寺拳法）
園部秀雄と美田村千代（なぎなた）
鵜沢尚信（銃剣道）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！　現代武道９道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。大人も子供も楽しく読んで、歴史も学べる武道教養マンガ。

役に立つ 少年剣道指導法

香川大学教授・医学博士
剣道教士八段 **山神眞一** 著
A5判・並製・258頁・DVD付・本体2,400円＋税

解説ＤＶＤ付属！

少年剣道指導の現場で役に立つ月刊「武道」好評連載を単行本化。少年剣道指導者必読の一書。 付録のＤＶＤには、写真では伝え切れなかった実技関連の部分を収録時間１１５分を超える映像で紹介。

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行　単行本のご紹介

小笠原流の伝書を読む

弓馬術礼法小笠原教場三十一世宗家 小笠原清忠 著

鎌倉時代から江戸時代にいたる武家礼法で、弓術、弓馬術と結びついた小笠原流。まずは小笠原家の歴史をその起源から概観し、続いて礼法の総論を述べる。さらに小笠原家に伝わる『修身論』や『体用論』などの伝書や教歌を繙いていく。伝書や教歌の原文を記して、その教えが現代にどう活かされているのか具体的事例を挙げながら解説。

四六判・上製・322頁　本体2,400円＋税

なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長 長濱 文子 著

沖縄のなぎなたを、ゼロの状態から〝県技〟といえるほどに成長させた道のり、その裏にあった関係者の惜しみない努力、成功に導いた数々の工夫を、沖縄県なぎなた連盟設立以来の会長であり、全日本なぎなた連盟会長も務めた著者が綴る。なぎなた普及のあゆみを知ることができるのはもちろん、著者が長年の事業経営・なぎなた組織運営を通して得た人生の教訓や教育論から、様々なことを学べる一冊。

四六判・上製・354頁　本体2,400円＋税

柔道　その歴史と技法

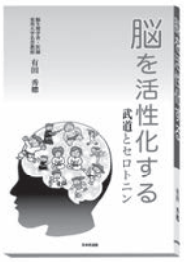
筑波大学名誉教授 藤堂 良明 著

柔道の技法が、どのように形づくられてきたのかを、体術の起こり、柔術諸流派の歴史に遡り、丁寧にひもとく。さらには、全日本選手権やオリンピックを始めとした各種競技大会にみられる技法を分析し、今後の課題を探る。

四六判・上製・330頁　本体2,400円＋税

脳を活性化する

脳生理学者・医師東邦大学名誉教授 有田 秀穂 著



人間の心身を安定させ、「無心」の状態を作るセロトニン神経――その研究の第一人者が、丹田呼吸法を手懸かりに、武道や禅、日本文化を題材として、誰もができる脳を活性化する方法をわかりやすく解説。

A5判・並製・346頁　本体1,600円＋税

弓道　その歴史と技法

筑波大学体育系准教授 松尾 牧則 著

弓矢の発生から日本における弓矢の発達、技法の発展を歴史を追いながら概観し、また、世界の弓術の数々も紹介。現代の弓道の課題や射法についても踏み込んだ、弓道研究の第一線に立つ著者渾身の一書。巻末には、五百冊以上の参考文献や、人名・事項索引を掲載。弓道指導者必携の書。

四六判・上製・484頁　本体2,400円＋税

役に立つ少年柔道指導法

公益財団法人講道館道場指導部課長 向井幹博 著

少年柔道指導の現場で役に立つ好評連載を単行本化。付録のＤＶＤには、写真では伝わりにくかった部分を映像で紹介。

また、少年柔道が抱える様々な問題点を、講道館所蔵の柔道文献から、解決の糸口を探っていく。

A5判・並製・414頁・DVD付　本体2,400円＋税

高め合う剣道

筑波大学名誉教授 佐藤 成明 著

先達が心血を注いで残した「教育剣道の灯」を、正しく受け継ぎ、次代へ正しく受け渡すために、教育剣道の実践者として長年の経験をもつ筆者が、古今の文献を手掛かりに日々の修錬で大事な事柄を綴る。これからの剣道の在り方、すべての剣道を学ぶ者が「互いに学び、高め合う剣道」の在り方を考えるために必携の一書。

四六判・上製・564頁　本体2,400円＋税

平法　天真正伝香取神道流

天真正伝香取神道流師範 大竹 利典 著

近世剣術の源流として知られる天真正伝香取神道流の全伝を受け継ぐ著者が、その膨大な武と知を語る。香取神道流の歴史、剣術・居合術・薙刀術・手裏剣術などの武術、方術・築城術などの遁甲術や軍学兵法を、伝書を基に紹介。さらに、七十年近い修行人生を振り返り、武を志す全ての者に必要な「平法（へいほう）」の思想について語る。

四六判・上製・296頁　本体2,400円＋税

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

第34回わんぱく相撲全国大会

6年生 わんぱく横綱に武井銀士（お茶静岡）

5年生 山下正清（鹿屋JC）、4年生 重村鴻之介（奄美大島）

6年生・決勝戦＝武井（左）が上手投げで林を破り、初優勝を飾る

第34回わんぱく相撲全国大会（共催＝日本相撲協会・東京青年会議所）は、7月29日、東京・両国の国技館で開催された。

大会には全国各地区の予選を勝ち抜いた小学4年生から6年生まで、総勢339名（各学年113名）が出場した。

試合は学年別トーナメント方式の個人戦で行われ、6年生の部では武井銀士（お茶静岡）、5年生の部では山下正清（鹿屋JC）、4年生の部では重村鴻之介（奄美大島）が、それぞれ初優勝を果たし、第34代わんぱく横綱に輝いた。6年生の武井の指導者である加藤耕市氏は1984年・東京場所のわんぱく横綱で、史上初の師弟わんぱく横綱の誕生となった。

また、出場全チームを対象に、個人戦の成績を点数換算し、全学年の合計点で順位を決定する団体戦が行われ、高知が高知県勢として初優勝を飾った。

■6年生（113名出場）

前年度横綱の福原丈一朗（愛媛A）は3回戦で敗退、同大関の上野響哉（東京選抜）は4回戦で姿を消した。

準々決勝にコマを進めたのは、黒田颯真（墨田）、西島悠来（柏）、住田太智（高知）、武井銀士（お茶静岡）、林玲（長野選抜A）、仲野奏人（福井）、西出大毅（和歌山A）、臼田哲朗（なごや）の8名。

6年生・準決勝戦＝林（手前）が西出に押し出しで勝利

6年生・準決勝戦＝武井（上）が西島に下手投げを決める

▽準々決勝
黒田颯真　寄り切り○　西島悠来
住田太智　下手投げ○　武井銀士
林　玲　○押し出し　仲野奏人
西出大毅　○掛け投げ　臼田哲朗

西島は、一回り大きい体格を活かし一気に前に出て、寄り切った。

武井は、頭からぶつかり土俵際で豪快な下手投げで勝利を収める。

林は、立ち合いで有利な態勢を作り、仲野を一気に押し出した。

西出は、土俵際に追い込まれるが体を入れ替え、掛け投げで勝利し、準決勝へ進出した。

▽準決勝
西島悠来　下手投げ○　武井銀士
林　玲　○押し出し　西出大毅

西島対武井の対決。武井は、会心のぶちかましから後ろ廻しを取り、一気に攻め、下手投げで決勝進出を決める。

林対西出の対決。一度仕切り直しになった後、2度目で立ち合いが成立。西出が前廻しを取りに行くも、林が一気に前に出て、押し出しで勝利。

▽決勝
武井銀士　○上手投げ　林　玲

立ち合いは互角。両者後ろ廻しを取りに行く。林はおっつけからの押しが得意の形。しかし、武井は林の動きを封じ、落ち着いて対応した。最後は土俵際まで追い込み、上手投げを決めて、わんぱく横綱に輝いた。

【大会結果・6年生】
◎横綱＝武井銀士（お茶静岡）
○大関＝林　玲（長野選抜A）
▽関脇＝西島悠来（柏）
西出大毅（和歌山A）

◎6年生優勝＝武井銀士選手（お茶静岡）

「初めて横綱になれて素直にうれしいです。早く家族に直接伝えたいです。1年生から始めた相撲は、毎年押しだけだったので、今年に入ってから投げ技の練習に取り組んだ成果が出たと思います」

好きな力士を聞いてみると「豪栄道関。押しや投げ技など、いろいろなことが出来るところ」と熱く語る。

今大会は素早い出足で一気に勝負を決めることを意識していたという。

「持久戦が苦手なので、速い相撲を意識しました。優勝は意識せず、目の前の勝負に集中したことが結果につながったと思います」

現在、稽古は週2回、加藤耕市氏に指導を受けている。「脇の甘さや足が揃ってしまうことなどを厳しく指摘され、結構泣いています」

これまで全国大会での優勝経験はない。しかし、加藤氏の指導を「自分のため」と思い、二人三脚で稽古に励み、結果につながった。今回の優勝で初の師弟わんぱく横綱が誕生したことになる。

最後にこれからの目標について「中学校に行っても相撲は続けます。静岡県内にもライバルがたくさんいます。将来は大相撲で三役になることを目標に頑張っていきたいです」と力強く語った。

5年生・決勝戦＝山下（手前）が突き落としで一気に勝負を決めた

5年生・準決勝戦＝山下（左）が腕捻りを決める

5年生・準決勝戦＝坂本（右）が寄り切って決勝進出

■5年生（113名出場）

▽準々決勝

古川勇斗　○勇み足　オドコンバトバーサルドルジ
坂本　遼　○小手投げ　児玉颯飛
奥田蒼真　○寄り切り　西村和真
井上泰我　押し出し○　山下正清

古川勇斗（八女ＪＣ）は最後まで諦めず、土俵際で粘り、相手の勇み足で勝利をもぎ取る。

坂本遼（高知）は昨年横綱の児玉颯飛（東京選抜）を小手投げで破り、準決勝へコマを進める。

奥田蒼真（河内音頭）は一気の寄りで西村和真（京都）に勝利。

山下正清（鹿屋ＪＣ）は下から突き上げるように押し込み、押し出しで勝利を上げる。

▽準決勝

古川勇斗　寄り切り○　坂本　遼
奥田蒼真　腕捻り○　山下正清

坂本は一旦は土俵際まで追い詰められるも落ち着いて相手を捌き、寄り切って決勝進出を決める。

昨年三位の山下は低く当たり、相手の懐に潜り、腕捻りで奥田を退け決勝進出を果たす。

▽決勝

坂本　遼　突き落とし○　山下正清

山下が一気に坂本を突き落としで破り、昨年3位の雪辱を晴らし、念願のわんぱく横綱になった。

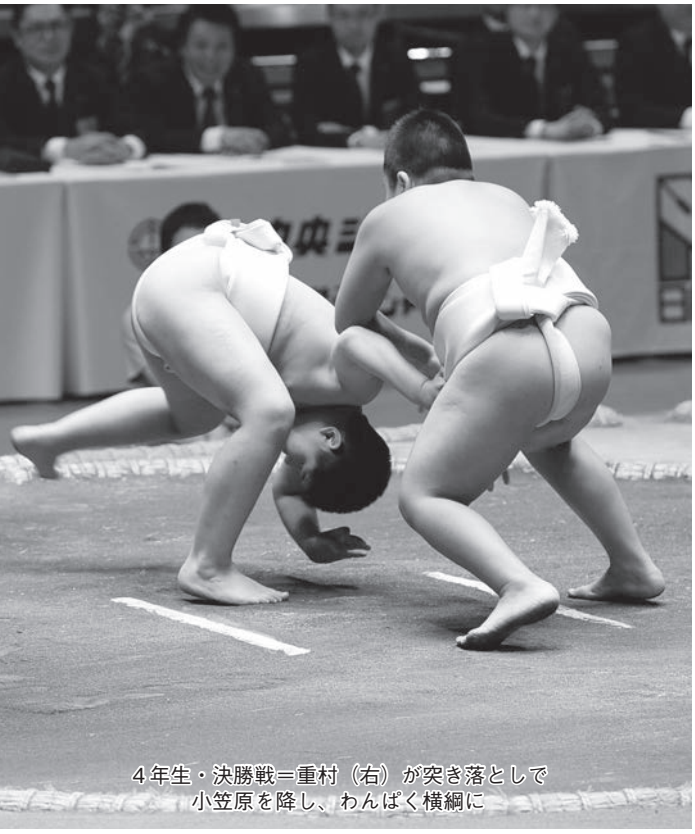
◎5年生優勝＝
山下正清選手（鹿屋ＪＣ）

「兄（昇介）が2度わんぱく横綱（第31代・第32代）になっていたので周りからの期待が大きくて、今日はやりづらかったけれど、同じ横綱になれてうれしいです。今は感謝の気持ちでいっぱいです。これからは得意の押し出しに磨きをかけ、将来は大相撲に行きたいです」

【大会結果・5年生】

◎横綱＝山下正清（鹿屋ＪＣ）
○大関＝坂本　遼（高知）
▽関脇＝古川勇人（八女ＪＣ）
奥田蒼真（河内音頭）

4年生・準決勝戦＝小笠原（左）が力強く寄り切った


4年生・決勝戦＝重村（右）が突き落としで小笠原を降し、わんぱく横綱に

4年生・準決勝戦＝重村（左）が突き落としで勝利

■4年生（113名出場）

▽準々決勝

寺家琉唯輝　寄り倒し○　小笠原広祐
加藤道悟　押し出し○　平賀瑛大
青木貫太　網打ち　○　重村鴻之介
大和田優　下手投げ○　竹澤　光

小笠原広祐（津軽）は一瞬早く左下手を取り、そのまま寄り倒し準決勝へ進む。

平賀瑛大（津ＪＣ）は一気の押しで加藤道悟（淡路伊丹）を押し出し、勝利。

重村鴻之介（奄美大島）は青木貫太（焼津）に土俵際まで押し込まれるが、体を入れ替え勝利する。

竹澤光（こだまＪＣ）は前廻しをしっかりと掴み、下手投げで勝負を決める。

▽準決勝

小笠原広祐　○寄り切り　平賀瑛大
重村鴻之介　○突き落とし　竹澤　光

小笠原は前廻しを一気に引きつけ寄り切って、決勝進出を決める。

重村は立ち合いが遅れ、先に廻しを取られるも、うまく切り返し、突き落としで勝利。

▽決勝

小笠原広祐　突き落とし○　重村鴻之介

小笠原が前褌を取りにいこうとしたが、重村が一気の攻めを見せ、勝負を決めた。

◎優勝＝重村鴻之介選手（奄美大島）

「優勝できてよかったです。自分の長所といえるものはまだないので、来年に向かって、ひとつひとつ頑張っていきたいです。今一番したいことは、早く次の試合がしたいです。相撲が好きなので、将来はプロになって白鵬関のように力強い押しで活躍したいです」

【大会結果・4年生】

◎横綱＝重村鴻之介（奄美大島）
○大関＝小笠原広祐（津軽）
▽関脇＝平賀瑛大（津ＪＣ）
竹澤　光（こだまＪＣ）

なぎなたという素晴らしい武道を
一人でも多くの人に伝えたい

私の歩んだ

なぎなたの道

元全日本なぎなた連盟顧問

徳永 千代子 著

（四六判・上製・252頁）

戦前の薙刀術教員養成所に始まり、戦後の苦難の復興期を経て、現在の隆盛に至るまで、著者自身が歩んだなぎなたの道を振り返りながら、なぎなたの素晴らしさを謳い上げた会心作。なぎなた愛好者のみならず、武道指導者必読の一書。

◇第１章多感な少女時代　◇第２章薙刀術教員養成所　◇第３章卒業　◇第４章なぎなた教師◇第５章全日本なぎなた連盟結成　◇第６章財団法人化　◇第７章体協加盟と国体参加　◇第８章生涯続くなぎなたの道

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は
日本武道館出版広報課
までどうぞ！

TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B5判・上製・箱入・526頁）

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携書。

BUDŌ：THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B5判・上製・DVD付・336頁）

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版がついに刊行！ 海外武道修業者・関係者におすすめしたい決定版。

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野 純 著

（四六判・上製・410頁）

臨床心理学の立場から、子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉の言葉を満載。

贈る言葉

なぎなた範士からのメッセージ

月刊「武道」編集部 編

（四六判・上製・366頁）

全国各地のなぎなた範士25名が、後世のなぎなた人へ贈るメッセージ。近代なぎなたの史料ともなる各範士の歩みを綴った半生記集。

武道伝書を読む

天理大学教授

湯浅 晃 著

（四六判・上製・348頁）

『風姿花伝』、『兵法家伝書』、『五輪書』など、代表的な武道伝書をわかりやすく読み解き、読者のためになるメッセージを贈る。

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授

田代しんたろう 著

（B5判・並製・236頁）

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に直接インタビュー取材し、武道の良さ、素晴らしさをおもしろく、わかりやすく描く。

なぎなたに夢を馳せて

沖縄県なぎなた連盟会長
国際なぎなた連盟副会長

長濱 文子 著

（四六判・上製・356頁）

沖縄におけるなぎなた成長の道のりを、連盟会長として組織運営・人材育成に携わってきた著者が振り返る。

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

傘寿を超えた武道界の先達30名が贈る、後輩への熱きメッセージ。修行時代から現在までの足跡を辿る、後世に残す記録集。

2020年東京オリンピック パラリンピック 競技大会開催準備

日本武道館増改修工事 安全祈願祭

地鎮の儀の忌鍬＝盛土をおこす日本武道館の高村正彦会長（右）と白井日出男理事長

日本武道館では２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会において柔道、空手道、視覚障がい者柔道競技が実施される。

７月18日の大安吉日に、日本武道館南側の中道場棟建設予定地で、関係者37名が参列し、「２０２０年東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催に伴う日本武道館増改修工事・安全祈願祭」が執り行われた（建築主＝日本武道館、斎主＝築土神社）。

これは、２０２０年東京大会開催に向けて日本武道館の増改修工事を行うにあたり、工事の安全を祈願して実施されたものである。神事後には、日本武道館地下１階食堂において直会（なおらい）が催された。

工事では、東京オリンピック・パラリンピック時に練習会場となる400畳敷の中道場を本館南に増設する。また、来年９月より全館を休館して、本館の改修工事も進め、２０２０年６月に竣工、本番に備える。

◇

■安全祈願祭

安全祈願祭は中道場棟建設予定地に神事用テントを設営して、午前11

神事会場では改修後の完成予想図が展示された

日本武道館本館（左）と中道場建設予定地の神事会場（右）

時より実施された。

▽安全祈願祭では開式の後、築土神社神職より、修祓（その身に纏った罪、穢れを祓い清める）、降神、献饌（神前に神饌品を供える儀式）、祝詞奏上、四方祓いといった神事が執り行われた。

▽次に工事の安全を祈願し、地鎮の儀（その土地で初めて草を刈り、土をおこし、土をならす）が行事所役（設計者、建設主、施工者）により執り行われた。

始めに忌鎌として、設計・監理者である山田守建設事務所の東清仁代表取締役会長と宮原浩輔代表取締役社長が鎌を奉持し、盛土の草を刈り上げた。次に忌鍬として、建築主である日本武道館の高村正彦会長と臼井日出男理事長が鍬を奉持し「エイ・エイ・エイ」の掛け声で盛土をおこした。最後に忌鋤として、施工者である竹中工務店の宮下正裕取締役執行役員社長が鋤を奉持し、土をならして、地鎮の儀が滞りなく執り行われた。

▽次いで玉串奉奠が執り行われた。神職に続いて、日本武道館の高村会長と臼井理事長、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の布村幸彦副事務総長、山田守建築事務所の東代表取締役会長、竹中工務店の宮下取締役執行役員社長がそれぞれ厳粛に玉串を奉奠した。

▽続いて撤饌、昇神の神事が神職により行われ、安全祈願祭は粛々と進められた。

▽最後にその場において神酒拝載が行われた。参列者はかわらけを各自取り、神職の発声により乾杯した。

◇

■直会

会場を日本武道館地下1階食堂に移して、直会が実施された。

▽始めに建築主として高村正彦日本武道館会長が挨拶に立った。

「これから山田守建築事務所、竹中工務店、その他関係者の皆様の努力で工事が安全で恙なく進められることを望んでおります。そして2020年東京オリンピック・パラリンピックが成功裡に行われることを大いに期待しております。その出発点である安全祈願祭が無事に終了したことを皆様に御礼申しあげます」

▽続いて来賓を代表して、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の布村幸彦副事務総長が挨拶を述べた。

「日本武道館は、1964年の東京大会において初めてオリンピック種目となった柔道競技の会場として建築された歴史があります。2020年の大会においても柔道、視覚障がい者柔道、初めてオリンピック種目となった空手競技の会場としても活用することとなりました。中道場の増築に伴い、円滑な大会運営が可能となり、再びオリンピックを迎える日本武道館は、レガシーと持続可能性を重視する東京2020年大会を象徴する施設となる予定です」

▽設計・監理者を代表して山田守建築事務所の宮原浩輔代表取締役社長が挨拶を述べた。

「建設当時、山田守がどのような考えで日本武道館を設計したのか、当時の記録、書籍、諸先輩方からのお話を伺い、考えて私なりに理解をしました。山田守は敷地の持つ歴史、建物に求められる機能性、それらを総合的に一つの美にまとめ上げるという考えで設計したのではないかと考えております。

この度の中道場の建設においても

宮下正裕竹中工務店取締役
執行役員社長

宮原浩輔山田守建築事務所
代表取締役社長

布村幸彦東京オリンピック・
パラリンピック競技大会組織
委員会副事務総長

高村正彦
日本武道館会長

乾杯を行う臼井日出男日本武道館理事長（中央）

三藤芳生日本武道館
常任理事・事務局長

基本的な建築の考え方は変わっておりません。旧江戸城という敷地の持つ歴史と意味、森林が生い茂る自然の一画である土地を鎮め、調和しながら建物を建てさせていただくということです。また、本館といかに調和するかという観点を持って設計をさせていただきました。

本館の改修については建物の持つ機能性、安全性、バリアフリー化、快適性・利便性を最大限に向上させつつも、見た目を変えないという方針で設計させていただきました」

▽施工者を代表して、竹中工務店の宮下正裕取締役執行役員社長が、

「1964年大会の工事において、山田守事務所設計のもとで当社は施工をしました。それから半世紀に亘（わた）り、日本武道館には大変お世話になりました。そして今回また、増改築工事に携わらせていただき、大変光栄に思っております。施工にあたっては期待にお応えするべく、日本武道館からのご指導、山田守事務所の設計趣旨を十分に踏まえて、当社の技術力、総力を結集して安全、品質を第一に考え、最善を尽くして工事を進めて参ります」と述べた。

▽続いて、日本武道館の三藤芳生常任理事・事務局長が日本武道館の東京大会に向けた増改修工事の概要について経過説明をした。

「日本武道館は2020年東京大会に向けてどのような方針で臨むのか、高村会長、臼井理事長の指導を頂いて、次の3点を決めました。

⑴ 2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の成功を果たす。

⑵ 日本のランドマークに相応（ふさわ）しい、日本武道館のレガシー化を果たす。

⑶ 共生社会に相応しい、バリアフリー化を実現する。

以上の3点を実行、達成するため、事務局内にプロジェクトチームを立ち上げて準備に入りました。

それから、東京都、組織委員会、山田守建築事務所、日本武道館で計26回の4者会議を実施しました。それに加えて、全日本柔道連盟、全日本空手道連盟、DPI（障害者インターナショナル）日本会議、この4月からは竹中工務店も加わり、8者会議を計6回実施をして今日に至っています。4者会議において、会場

日本武道館本館（左）と新たに建設する中道場（右）

準備の費用について、東京都、組織委員会、国、日本武道館の４者均等負担で話を進めて参りました。

昨年末には、山田守事務所がこれまでの日本武道館50年の課題をすべて盛り込んだ約800頁にわたる実施設計書を完成、これを受けて今年の２月末に指名競争入札を行い、３月に50年前の日本武道館建設の実績と技術提案書に優れた竹中工務店に発注することが決定いたしました。

本年４月から中道場の増設工事を着工し、来年６月には日本武道館の南側に400畳敷の中道場が完成の予定です。その後、柔道の世界大会、空手道のプレミアリーグをオリンピックのプレ大会として実施します。また、来年９月から13ヵ月休館して本館の改修工事を行います。

東京大会の成功、日本武道館のレガシー化、バリアフリー化を同時に達成して、日本武道館が武道を中心に国家国民のより大きな舞台となるよう、関係者の皆様と協力してしっかりと準備を進めてまいります」

▽乾杯の音頭を日本武道館の臼井日出男理事長が行った。臼井理事長は「後は、山田守建築事務所、竹中工務店の力を持って期限内に安全に増改修工事が完成することを祈念します」と述べて乾杯を行った。

直会の列席者は、50年前の東京大会に、また、日本武道館50年の歴史に思いを馳せ、２年後の東京大会の成功に向けて、工事の完遂を共に誓った。

最後に、竹中工務店の細田英一作業所長による手締で直会は終了した。

日本武道館増改修工事予定表

2018年7月18日	増改修工事安全祈願祭
2019年6月	中道場棟増築工事完了
2019年8月～9月	柔道、空手道プレ大会開催
2019年9月	休館（2020年9月まで）、本館改修工事着手
2020年6月	本館改修工事完了
2020年7月～8月	東京オリンピック柔道・空手競技開催
2020年8月下旬	東京パラリンピック柔道競技開催
2020年10月	全館供用開始

好評発売中

マンガ・武道の偉人たち

武道の基礎を築いた偉人たちの生涯を描く！

漫画家
別府大学客員教授
田代しんたろう 著

B5判・並製・302頁・本体1000円＋税

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」。

人気を博した「武道の偉人」シリーズが単行本化！

柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道の現代武道9道の普及・発展に尽力した偉人たちの生涯を通じて、各道の歴史をひも解きます。

大人も子どもも読んで楽しく、歴史も学べる武道教養マンガ。

収録偉人一覧

嘉納治五郎（柔道）　高野佐三郎（剣道）　阿波研造（弓道）　双葉山（相撲）
船越義珍（空手道）　植芝盛平（合気道）　宗道臣（少林寺拳法）
園部秀雄と美田村千代（なぎなた）　鵜沢尚信（銃剣道）

編集・発行　公益財団法人日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

（B５判・上製・箱入・526頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

（B５判・上製・DVD付・336頁）

武道 子どもの心をはぐくむ

早稲田大学教授・教育カウンセラー

菅野　純 著

（四六判・上製・410頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者

田谷 将俊 著

（四六判・上製・376頁）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授　**田代しんたろう 著**

（B５判・236頁）

月刊「武道」誌上で好評連載中の「マンガ・武道のすすめ」を単行本化！
柔道・剣道・弓道・相撲・空手道・合気道・少林寺拳法・なぎなた・銃剣道・古武道の各先生方に毎回直接インタビュー取材し、武道の良さ、すばらしさをおもしろく、わかりやすく、描いています。
大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。

合気道は４話を掲載！

多田宏先生

磯山博先生

菅沼守人先生

東北大学学友会合気道部

明治150年記念　平成30年度

全日本少年少女武道錬成大会

明治150年記念平成30年度全日本少年少女武道錬成大会は、7月15日の合気道から始まり、弓道（16日）、剣道（21日、22日）、空手道（28日）、柔道（29日）、銃剣道（8月1日）、少林寺拳法（4日）、なぎなた（5日）の8種目9日間、全国から1万6332名が参加して日本武道館で開催された。

記録的な猛暑の中、参加者は暑さに負けじと基本錬成、試合錬成に一生懸命取り組み、日頃の稽古の成果を存分に発揮した。

なお、各大会の冒頭では、西日本を中心に発生した平成30年7月豪雨の犠牲者に対し、全員で黙祷（もくとう）が捧げられた。

合気道

弓道

少林寺拳法

柔道

剣道

なぎなた

銃剣道

空手道

剣道開会式

ちかいのことば
内海陽太・内藤樺音（東京都・花小金井合気道　燦武館）

植芝守央
合気会理事長

高村正彦
日本武道館会長

総合演武（植芝充央合気会本部道場長）

合気道

7月15日　174団体2299名参加

開会式では、高村正彦日本武道館会長と植芝守央合気会理事長が挨拶。基本錬成に移り、全員で元気に舟漕ぎ運動を行った。続く稽古錬成では、本部道場指導者の指導のもと、参加者は受身や基本技を行った。

基本錬成の後は演武錬成となり、各団体2分という限られた時間の中で、参加者たちは技を確認し合いながら、汗を流した。

演武錬成が終了すると、総合演武となり、植芝充央本部道場長が登場。流れるように演武を披露し、大会を締めくくった。

まさき
聖誌朗

ちかいのことば
井上明紀・渡邊結美
（相模原市立旭中学校）

中野秀也
全日本弓道連盟会長

川端達夫
日本武道館常任理事

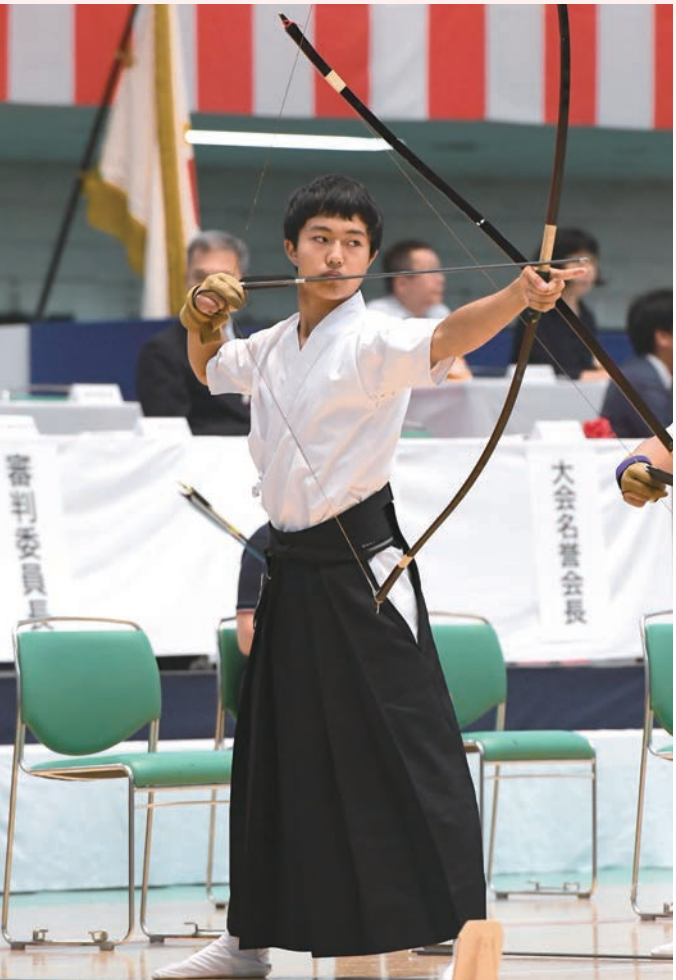
特別演武（左から前田かおり教士六段、坂本達雄教士七段）

弓道

7月16日　98団体1253名参加

開会式では、川端達夫日本武道館常任理事と中野秀也全日本弓道連盟会長が挨拶を述べた。続いて、神奈川県相模原市立旭中学校の2名による、ちかいのことば（選手宣誓）が行われた。

基本錬成では、選手たちは大道場いっぱいに広がり、準備体操を行った。礒部孝教士七段の指揮のもと、徒手八節を行い、射法を確認した。特別演武の後の試合錬成では、男女とも1チーム3名が各4射、計12射を行い、6中以上が予選を通過し、決勝は的中数により競われた。



必勝
山梨県石和町弓道スポーツ少年団

起て
大田原中学校

大平中

ちかいのことば（22 日）
前田結人
（奈良県・奈良講武会）

ちかいのことば（21 日）
糸井　空
（三重県・神風館道場）

福本修二
全日本剣道連盟副会長

塩谷　立
日本武道館常任理事

公開演武「木刀による剣道基本技稽古法」
（東京都・大田区剣道連盟）

剣道

7月21日・22日　774団体5447名参加

開会式では、21日は臼井日出男日本武道館理事長と稲川泰弘全日本剣道連盟副会長兼専務理事が、22日は塩谷立日本武道館常任理事と福本修二全日本剣道連盟副会長が挨拶を行った。開会式後は公開演武に続いて、参加者全員が大道場に広がり、準備体操と素振りを大きな声で行った。

試合は5人制の団体戦で基本判定試合と一本勝負を行い、各試合場ベスト8から3本勝負で争われた。選手たちは、暑さを吹き飛ばす気合の入った掛け声を大道場いっぱいに響き渡らせた。

南西
準備体操
指揮者
佐藤

ちかいのことば
山本翼（中央）・西村将太朗（左）・高畑諒太（北海道・魁星館）

笹川　堯
全日本空手道連盟会長

中山成彬
日本武道館常任理事

模範演武・ナショナルチーム団体形「五十四歩小」
平紗枝二段（中央）、武儀山舞二段（左）、石橋咲織二段

空手道

7月28日　137団体1768名参加

開会式では中山成彬日本武道館常任理事、笹川堯全日本空手道連盟会長が挨拶。続いて女子ナショナルチームによる団体形が披露された。

基本錬成では、基本の突き、蹴りを元気いっぱいに行った。試合錬成は1チーム3人、小学1・2年生、小学3・4年生、小学5・6年生、中学男子と新たに中学女子の5部門で1・2回戦（形競技）を行った後、各ブロックの上位8チームが決勝トーナメント（組手競技）に進出した。参加者は、気合の入った掛け声とともに持てる力を出し切った。

赤
青
6

ちかいのことば
相澤　燎
（三重県・松阪市武道館柔道教室）

中里壮也
全日本柔道連盟専務理事

河村建夫
日本武道館常任理事

模範演武（指揮者＝福見友子、
演武者＝西山大希、大島優磨、佐藤瑠香、角田夏実）

柔道

7月29日　266団体2881名参加

開会式では、河村建夫日本武道館常任理事と中里壮也全日本柔道連盟専務理事が挨拶を行った。

基本錬成では、福見友子氏の指揮のもと、強化選手4名による大内刈りや背負投などの模範演武が披露された。続いて、各団体の指導者が元立ちとなり、参加者たちはかかり稽古を行った。

試合錬成になると、低学年の部と高学年の部に分かれて試合を行い、参加者たちは日頃の稽古の成果を力いっぱい発揮した。

ちかいのことば
高田　尚
（名寄ピヤシリ銃剣道スポーツ少年団）

番匠幸一郎
全日本銃剣道連盟会長

臼井日出男
日本武道館理事長

特別演武＝松本直貴教士八段（右）、糸原純二教士七段

銃剣道

8月1日　43団体243名参加

開会式では、はじめに都道府県ごとに選手が入場行進、臼井日出男日本武道館理事長、番匠幸一郎全日本銃剣道連盟会長が挨拶を述べた。

特別演武の後、銃剣道、短剣道の合同錬成が行われた。選手たちは指揮者の指導に従い、一生懸命に基本の技を繰り返し、心身を鍛練した。試合錬成は個人（銃剣道・短剣道）と団体（銃剣道）の2部門が行われた。当日は猛暑日となったが、選手たちは己の力を出し切ろうとまさしく熱戦を繰り広げた。

がんばれ！宮城

鎮魂行主座
奥平春妃
（和歌山県・田辺西スポーツ少年団）

宗　由貴
少林寺拳法グループ総裁

模範演武＝志村力准範士七段（左）、川島佑斗正拳士五段（右）

少林寺拳法

8月4日　189団体1226名参加

今年は「夢に向かって～自分を信じて～」を大会テーマとして開催。鎮魂行に続き、開会式では高村正彦日本武道館会長と宗由貴少林寺拳法グループ総裁が挨拶に立った。基本錬成では志村力准範士七段の指揮のもと、全員で突きや蹴りを行った。続く演武錬成では、段・級、学年別に分かれて単独演武や組演武を行い、稽古の成果を披露した。

演武錬成の後には稽古錬成に移り、指揮者の模範の後、参加者は様々な拳士と組んで交流を図り、技の練習を行った。

ちかいのことば
片山眞那
（愛知県なぎなた連盟豊川支部）

久保素子
全日本なぎなた連盟副会長

なぎなた

8月5日　158団体1215名参加

開会式では、高村正彦日本武道館会長と久保素子全日本なぎなた連盟副会長が挨拶を行った。

基本錬成では、参加者が準備体操をした後、号令に合わせ、素振りと体捌（たいさば）きを行った。

続いて競技に移り、演技競技では2名1組となって基本の打ち、受け、捌きを演武した。試合錬成ではそれぞれが精一杯の力を出し、今夏の少年少女武道錬成大会最終日を締めくくった。

凜

石井

区立緑丘中学校)、川崎佑太・寺本悠馬・前田広海（一蓮合気道会)、磯崎旭・梅山拓也・高野紗衣・杉沢凛花・中原圭斗・両角光央（多摩川合気道会）

【神奈川県】岩崎伶哉（合気道自灯館道場)、持田篤紀・佐々海陽・川崎未翔・林果歩（合気道幸徳会)、野本想乃・吉村康太郎（AIKI 健芯 CLUB)、金澤朱恩（合気道青葉塾道場)、松本奈央・川田琉月（合気道春水道場)、齋藤崇嘉（桜台合気道クラブ)、天野冴・佐々木里緒・西野珠美・松岡朋尚・岩鼻帆風・天野匡（春陽会)、髙橋義将（南林間カルチャーセンター)、佐藤みなみ（横浜南合気会)、外山心優・蓮見龍之介（鶴岡八幡宮研修道場合気道)、岡本茅音（城下町合気道〈小田原道場〉)、山本恵多・宮本望夢・山本泰史（藤沢合気道倶楽部)、小川紗矢・秋葉恵那（無門館)、前田美希・山田寛人・丸川夕菜・中森陽太・更科祐里・茂木泰誠・村山梨奈・石井成来・吉村真一・更科宏太朗・平澤ティモシィー（合氣道漸進会)、土屋友路佳・山内葉楠（合気道相模和道会)、二俣友宣・川内隆輔（合気道高城道場合気道わんぱく道場)、浅沼杏樹・藤田浩気（綾瀬市・海老名市合気会)、濱口海・狩野隼之介（寒川合気会)、松嶋太希・石橋環・石橋樹・小野碧斗・中川耀貴（国立印刷局合気道部)、亀井達朗・岩田康佑・瀬戸蒼音・露木かのり（秦野武産合気会)、渡邉剛（合気道相模誠心会田名道場)、田代結萌（よみうりカルチャー横浜合気道教室)、綿井翔子・横井凜櫂（東急セミナー BE 青葉台)、岸美琴・田中聖人・高畑菊莉（葉山町合気会）

【山梨県】山口陽葉里・清水愛織・河野心夏・武井希羽・山口竜輝（浅川教室)、中村太良・杉山叶泰（甲府ジュニア合気道）

【長野県】坂巻奈央子・金井海晴（合気道武石道場）

【静岡県】清水若葉・杉浦華穂（裾野合気会)、長木ヒカリ・林瑛翔・蜂須賀渚・原竹凛・林遥希・木内譲太郎・高橋くるみ・山口貴大・市川結李加・吉岡涼・嶋崎尊・高橋悠太・小町優生・林征吾・長木ユキエ・石田怜那・森本陽南子・坂本一護・脇田錬・佐野聖奈・満尾友希乃（伊豆至誠会)、工藤颯馬・澤田孝太郎・進藤拓斗（合気道石芯塾童夢の会)、久保田愛梨・藁科真奈・桑原琉維・久保田聖斗（啓翔会）

【三重県】後藤聖虎・曽根遥果・安藤竜一・後藤瞳空（鈴鹿合氣会倉武塾）

【京都府】佐口幸太郎（合気道入江道場）

【大阪府】小松薙佳・小松龍生・児玉剛・中野春風・児玉唯（合気道正勝会)、乃村蒼奈・乃村瑞希（合気道泉州武育会）

【兵庫県】藤堂結子・今田怜良（相生会にしのみや合気道クラブ）

【奈良県】桑江佑弥・飛松文也・石田祥子・桑江沙季（奈良合気会)、田野景鳳・山田和佳・秋本天花・倉見風舞・菊地星汰・田野景獅・尾上歩夢（合気道西大和会)、山田啓太（合気道三錬会）

【和歌山県】最田勘太・長倉優希・鯨泰成・福井春陽・大迫龍鳳・福井美月・鯨紗來・貴志幸ノ介（和歌山竹豊館道場）

【岡山県】藤岡雄大（倉敷天領塾)、松野啓志（倉敷市立西中学校合気道部）

【広島県】長野煌記（合気道北平塾ひとみ幼稚園長束道場）

【香川県】塩田橙子・塩田菜子・増田小夏・名波桜香・山田結・齊藤莉沙（高松合気会）

明治150年記念　平成30年度
全日本少年少女武道錬成大会　受賞一覧

平成30年7月15日から8月5日までの9日間にわたって日本武道館で開催された、明治150年記念平成30年度全日本少年少女武道錬成大会の受賞一覧を掲載いたします。

合気道 ―＜努力賞＞

【北海道】村山優空・阿部若菜（道央合氣道会）
【青森県】若井由乃介・玉内花秦（青森道場）
【岩手県】竿代良行（合気道奥州道場）
【福島県】渡部真薫・久保木基（合気道須賀川道場）
【茨城県】倉持真尋（つくば牛久合気道友会）、荒木陽登・金井大和（取手市合気道スポーツ少年団）、上野花凛（つくば合気道会）、飯島綾菜・亘莉子（水戸市合気道スポーツ少年団）、平林千明・岡村彩音・三代雅人・澤畠健豊（ひたちなか市合気道少年団）、髙橋煌空・橋本磨輝・郡司拓実・瀧家楓翔・齋藤至道・住吉良太・鶴田遥香・渡辺紗月・中村妃花（岩間合気道スポーツ少年団）、桐山肇・河田悠（東海合気道少年団）、黒澤光・水野谷真央（常陸大宮合気道少年団）、黒沢蓮斗（那珂湊合気道少年団）、肥高心春（笠間市体協合気道部笠間教室）
【栃木県】花村佳翼・小暮主馬・カラヴェ空・花村昂翼（小山合気会）
【群馬県】槻紅花（薫風館）
【埼玉県】松井凰輝・山野井健太・阿曽悠理・柴田悠杜・瀬下柊斗（合気道志優舘）、興津匠・宮崎彩歌・豊田眞生・先崎弘治郎（合気道浦和尾又道場）、田村紗帆（A＆P合気道石垣道場）、叶野俊輔（蕨合気道会）、濵口愛瑠・鈴木理央・林実輝・笹木澄衡・小野明日未・西尾公伸（合気道大宮道場）、植田宗人・今田悠翔・山岸恒介（浦和合気会）、田辺絢三（A＆P合氣道大関道場）、高田昇・目代新弥・韮塚泰斗・曽我部由名（草加合気道研究会）、遠藤稜久（蓮田合気会）、畑葵衣・瀬間はるか（合氣道川島町同好会）、廣瀬泉紀（合気道川越道場）、金井楓未弥（日高市合気道同好会）、糟谷拓斗・有松孝之・當麻瑞希・浅見桜花・小林乃琶・澤田藍・熊野あすか・小澤結音（合気道研心会）、松本陽奏・高橋志優（狭山市合気道教室）、髙田和暖・上原和純（合氣道修練道場自然館）、加藤結佳・木村良成（合気道和光道場）、相原駿佑（志木合氣会）、関口海（合氣道神明塾）、亀井健人（合気道明心会）、志村莉恩・細山田健人・志村蓮・細山田愛花（入間幸武館道場）、豊川唄叶・豊川暑土（新所沢合氣道同好会）、豊田藍斗・亀田幸周（白岡合気会）、戎嶋理良・小林和輝（合気道桶川愛氣会）、高橋漣・赤岡旺武・穴井楓・加藤尚希・佐藤実花・加藤和希・田村青空・春日海音・佐藤快香（本庄合気会）、金山三四朗（合氣道健武館）
【千葉県】池田崚真・近藤龍騎・松尾知亮・髙橋愛子・石井琳太郎（千葉市立椿森中学校合氣道部）、石橋明音・平沢直樹・伊藤優花（合氣道弘龍會明心館道場）、岩瀬宗佑・末岡桜子（流山合気道同好会）、川瀬雄大・池田樹世（我孫子市合氣道スポーツ少年団）、佐藤爽風・山田皓貴（船橋合気会）、小林壮一・スミスジャスティン怜・土井遼太郎・戸部遥矢・前田藍・横塚太翼・河野美唯（朋清会白井道場）、石川友聖・玉木優汰・鈴木暁裕・有久優佑（合気道れんしん会）、吉田千世（八千代市合気道連盟）、樋口嵩大・林田駈琉・髙山海翔・眞鍋史人・小向瑛太・岡田翔真・藤塚健志・髙山拓海（流山合気会）、柘植由布子・梅花悠太（銚子合気道会）、大木瑛人・大木啓史・髙柳希海・戸倉琉花（合氣道松心館）、織原幸樹（安房館山道場）、福田光翔（北総合気会八街道場）、佐久間ゆめ・木原朔・蔭山翔那人・伊藤葉大・伊藤浩大（袖ケ浦合気会）、渡邊大輝（合氣道命炎塾）、川村賢太・遠山健介（合氣道誠氣会）、中原拓海（高根台カルチャーセンタージュニア合気道）、向井優慧・古川一路（柏少年合気会）、浜本博斗・中村虎（合氣道明心館スポーツ少年団）、松永惇史・清水晴麻（じきしん合気道会）、川田莉愛（北総合気会山武道場）、赤荻大惺（柏の葉カルチャーセンター）
【東京都】岡本啓太郎・岸本一紗・平沼愛珠（中央区合気会）、金韓飛・伊与政希果・黒坂凜々子・堀晃大（合氣道宇宙の会）、岩見隼翔・大坪山伍・大西竜生（武蔵中学校合気道部）、黒木彩音・大野龍之介・福田将基・北村昊祐・嘉納健人・古賀端基・堀朱里・渡辺大翔（荒川合気会）、山田伊織・鈴木野々花・新井舞桜（合氣道順風会）、馬雯萱（合気道石田塾）、刈谷咲月・佐久間健一・山口広輝（葛飾合気会）、米重慎斗・寺本レイナ（合氣道土井道場）、加藤肇・金田彩希（城東誠和会）、半田真央（鐘ヶ淵合気道クラブ）、梁瑋涛・和田快斗・渋沢光太郎（新小岩合気会）、森煌希・青木武・名和円華・齋藤遼（合氣道木下道場）、中野勇琉・石井斗和・榎本実久・梅林果穂・松丸琴子（合気道向日葵道場）、湧井陽之・羽場磨洋（東急セミナーBE雪が谷）、森山紗樹（大森三中合気道会）、永作来都・山本大知・岩田佳祐（西馬込合気道会）、瀬川武仁・眞海優翔（大田区合気道会）、野澤陽介（合気道八起会）、唐野颯雅・井澤宏光（守清館）、久玉遥加・伊藤更紗・戸澤壱心・津田麻采椰・近藤ゆあん・近藤礼佳・増江のの歌・髙橋ひなの・伊藤美琴・増江なつ帆（合気道れいめい会）、近藤桂右・馬場虎治郎・秋山麻央・渡邉密喜・森悠高（祖師谷合気会）、岡本結太・草深馳瑠・見原颯眞・草深桃香・石橋佑都・石井悠裕（朋清会）、陶浪琉・古川仁成・小川眞毅（合気道自由が丘道場）、森結菜・杉谷優史（中野区合気道会）、藤田元樹・中島彬（明清会）、櫻井温・肥田恒輝・花森純奈・松下まる・新井千晴・竹内煌・瀧澤優太・高野美紅・千葉天翔・氣賀澤生矢（板橋区合気道連盟）、山本陽香子（合気道心和会）、松元咲樹・田中良明・平井迦音琉・三浦大知・永島迪・三浦弘夢・平井李々菜・飯野太雅・上田ちひろ・小川貴史・三村太朗・新関礼・井ノ口月雫・鈴木由莉子・松元鵬龍・鈴木恵美理・松浦大樹（月窓寺道場）、須藤寛太・渡邊諒也・上野夏唯・石神隼人・竹下裕果・服部良之介・渡邊創史・上野凌・大石時久・須藤蒼太・小林揺佳・髙橋未來・海雲美凪・服部淳之介・椎葉太郎（合気道新川塾）、外岡優希・豊岡敬仁・井上陽輝・村上遥人・福里熙（仲池合氣道同好会）、杉浦優衣・藤井愛弓（調布合気道会）、橋本倫太郎・多田直介（花小金井合気道燦武館）、渡邊莉依奈・門田侑夏・今野明香（東村山市合気道会）、津島乙葉・可児瑛未・三上蓮・津島一花（武産合気龍山会）、城定悠里（合気道「倫」）、奥所拓斗・芹澤宗一郎（穎明館中学高等学校合気道部）、星成将・橋口空翔・椎名祐允・河内佳乃（東大和市合気道会）、飯沼浩志・馬場沙緒里（合気道三澤塾）、井上瑞稀（鷹の台合氣道同友会）、能瀬まなみ（新宿スポーツセンター合気道教室）、中塩善太・林優衣（公益財団法人合気会本部道場少年部）、佐々木唯穂（日本武道館武道学園）、佐藤俊武根・稲川陽記・稲川凌汰・佐藤傑武根（東村山合気道クラブ）、Alexandru Dasha・Leong Sam・Bocanegra Hugo（パシフィック合気道）、中津瑞己・中津明祐美（武蔵村山合気道会）、佐野裕作・木多真咲・竹下千賀・平井佑典（千住合気会）、舟橋朔・細川夕陽・岩下和生・長谷川碧依・千田実優・森久保檜斗・渡邉紗希・成澤ひより・三木悠立・渡邉樹生（杉並合気会）、薊一太・大槻真伸（世田谷

弓　道　7月16日開催

男子の部

優秀賞	優良賞	敢闘賞	技能優秀賞
大平中学校Ａ（栃木県） 野木第二中学校Ａ（栃木県）	栃木県大田原市立大田原中学校Ｂ（栃木県） 小山市立小山城南中学校Ａ（栃木県）	武中学校弓道部Ａ（鹿児島県） 蒲郡市立形原中学校（愛知県） 宇都宮市立陽西中学校弓道部Ｃ（栃木県） 慶應義塾中等部Ａ（東京都）	幸田町立北部中学校（愛知県） 北犬飼中学校Ａ（栃木県）
努力賞	予選通過チーム（12 射 6 中以上）　24 チーム		

女子の部

優秀賞	優良賞	敢闘賞	技能優秀賞
鎌倉女子大学中等部Ａ（神奈川県） 熊本市立鹿南中学校Ｂ（熊本県）	鹿児島市立伊敷中学校（鹿児島県） 藤岡第一中学校Ａ（栃木県）	武中学校弓道部Ａ（鹿児島県） 宇都宮市立旭中学校弓道部Ｂ（栃木県） 田布施Ａ（山口県） おおたＡ（群馬県）	愛知県豊田市立朝日丘中学校Ａ（愛知県） 鹿児島市立伊敷中学校（鹿児島県）
努力賞	予選通過チーム（12 射 6 中以上）　13 チーム		

剣　道　7月21日開催

	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
第１ブロック	東松舘道場Ａ（東京都）	和歌山武道館剣道錬成クラブＡ（和歌山県）	鬼高剣友会Ｂ（千葉県）	北本剣士会（埼玉県）
第２ブロック	解脱錬心館Ａ（埼玉県）	久里浜剣友会（神奈川県）	三剱会（大阪府）	大田原剣道スポーツ少年団Ａ（栃木県）
第３ブロック	武蔵館（埼玉県）	水龍舘（静岡県）	桶川剣道連盟（埼玉県）	大津少年剣道クラブＢ（熊本県）
第４ブロック	上の台剣友会（千葉県）	仏生山スポーツ少年団剣友会Ａ（香川県）	蔵の街剣志会Ａ（栃木県）	新狭山剣志会（埼玉県）
第５ブロック	山梨健心館Ａ（山梨県）	埼玉越生錬成会（埼玉県）	高神剣道教室Ａ（千葉県）	和歌山武道館剣道錬成クラブＢ（和歌山県）
第６ブロック	たからづか剣道会（兵庫県）	大阪つばさ剣道クラブ（大阪府）	横浜三ツ境剣友会（神奈川県）	大和田剣友会Ａ（千葉県）
第７ブロック	鬼高剣友会Ａ（千葉県）	菅原剣士会Ａ（神奈川県）	大津少年剣道クラブＡ（熊本県）	芳明館Ａ（茨城県）
第８ブロック	神戸枝吉己勝館（兵庫県）	豊中小曽根剣友会（大阪府）	柏井剣志会Ａ（千葉県）	東松舘道場Ｂ（東京都）

7月22日開催

	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
第１ブロック	印南剣道場Ｂ（兵庫県）	兵庫少年こだま会（兵庫県）	正栄館磯部道場（神奈川県）	日本武道館研修センターＡ（千葉県）
第２ブロック	凌雲館広徳会道場（富山県）	雄邦館Ａ（東京都）	龍驤館（熊本県）	春石館道場（兵庫県）
第３ブロック	尚道舘（静岡県）	宝塚剣道円心会Ａ（兵庫県）	竹の子剣道クラブＢ（大阪府）	東陶器春風館（大阪府）
第４ブロック	武徳館剣道教室Ａ（愛知県）	仁智館道場Ａ（新潟県）	穴師剣道会（大阪府）	戸塚道場Ａ（神奈川県）
第５ブロック	新化館（石川県）	鎌田剣道スポーツ少年団Ａ（福島県）	練兵館（栃木県）	自求館道場（滋賀県）
第６ブロック	印南剣道場Ａ（兵庫県）	水海道剣道教室（茨城県）	桜風館（大阪府）	昇龍館一福道場（岡山県）
第７ブロック	結城尚武館Ａ（茨城県）	竹の子剣道クラブＡ（大阪府）	十河剣道スポーツ少年団（香川県）	わかわし剣道スポーツ少年団（沖縄県）
第８ブロック	尼西水明クラブ（兵庫県）	萌木剣道教室Ａ（東京都）	梅本少年剣友会Ａ（東京都）	益水館Ａ（茨城県）

空手道　7月28日開催

小学１・２年生の部

優秀賞	努力賞
全日本空手道一友会 B（東京都） 養正館 B（静岡県）	川口空手アカデミー（埼玉県） 拳正塾 B（東京都） 養正館 A（静岡県） 拳勝館鎌倉支部（神奈川県） 拳勝館川崎支部 A（神奈川県） 日本空手道明光館（神奈川県） 日本空手道泊親会川崎 A（神奈川県） 空手道一心塾（千葉県）
優良賞	
蒼鷹会空手道教室 A（東京都） 養正館 D（静岡県）	
敢闘賞	
松涛西部支部道場 A（静岡県） 正武館空手道場 A（東京都） 剛柔流空手道勝山会（千葉県） 全日本空手道一友会 A（東京都）	

小学３・４年生の部

優秀賞	努力賞
空手道一心塾 A（千葉県） 全日本空手道一友会 A（東京都）	剛柔会正剛道場 A（静岡県） 日本空手道泊親会川崎 A（神奈川県） 剛柔会相模館 B（神奈川県） 全日本空手道連盟糸東会千政館愛知支部天空会（愛知県） NPO 日本教育空手協会 A（宮城県） 拳勝館茅ヶ崎支部（神奈川県） 剛柔会相模館 A（神奈川県） 川口空手アカデミー B（埼玉県）
優良賞	
養正館 D（静岡県） 日本空手道道場会川口マリン空手クラブ C（埼玉県）	
敢闘賞	
全日本空手道一友会 B（東京都） 明和塾（群馬県） 剛柔流空手道錬心会（埼玉県） 養正館 C（静岡県）	

小学５・６年生の部

優秀賞	努力賞
全日本空手道一友会 A（東京都） 空手道一心塾 A（千葉県）	千葉松濤不動館（千葉県） 昇政塾 A（千葉県） 全日本空手道連盟糸東会千政館愛知支部天空会 B（愛知県） 茂原武道館 B（千葉県） 茂原武道館 A（千葉県） 日本空手道泊親会川崎 D（神奈川県） 日本空手道黎明会大和支部 A（神奈川県） 養正館 B（静岡県）
優良賞	
川口空手アカデミー（埼玉県） 皆思道場（東京都）	
敢闘賞	
剛柔会相模館 A（神奈川県） 蒼鷹会空手道教室（東京都） 剛柔会正剛道場 A（静岡県） 佐世保尚武館（長崎県）	

中学校男子の部

優秀賞	努力賞
全日本空手道一友会 A（東京都）	清原空手道スポーツクラブ A（栃木県） 全日本空手道一友会 B（東京都） 全日本空手道連盟剛柔会誠明館（神奈川県） 昇政塾 A（千葉県）
優良賞	
正武館空手道場 B（東京都）	
敢闘賞	
正武館空手道場 C（東京都） 正武館空手道場 A（東京都）	

中学校女子の部

優秀賞	努力賞
佐世保尚武館 B（長崎県）	川口空手アカデミー A（埼玉県） 全日本空手道一友会 A（東京都） 茂原武道館（千葉県） 川口空手アカデミー B（埼玉県）
優良賞	
全日本空手道一友会 B（東京都）	
敢闘賞	
謙交塾大和田道場 A（東京都） 日本空手道道場会川口マリン空手クラブ（埼玉県）	

柔　道　7月29日開催

	優秀賞	優良賞	敢闘賞
第１ブロック（高学年）	広畑柔道教室（兵庫県）	朝飛道場（神奈川県）	白根柔道連盟鳳雛塾（新潟県） 守口東部少年柔道教室（大阪府）
第２ブロック（高学年）	社柔道少年団（兵庫県）	春日柔道クラブ（東京都）	常総市体育協会石下柔道部（茨城県） 小川道場（神奈川県）
第３ブロック（高学年）	加古川柔祐会（兵庫県）	大石道場（愛知県）	平柔スポーツ少年団（神奈川県） 無心塾飯島道場（茨城県）
第４ブロック（高学年）	古賀塾（神奈川県）	昭道館池内道場（茨城県）	舞鶴柔道クラブ（茨城県） あすなろクラブ（大阪府）
第５ブロック（低学年）	八戸市柔道少年団（青森県）	紅柔道少年団（千葉県）	長澤武道館（神奈川県） 大多喜町少年柔道クラブ（千葉県）
第６ブロック（低学年）	広畑柔道教室（兵庫県）	向原柔道クラブ（東京都）	大間誠心館（青森県） 育徳館柔道クラブ（埼玉県）
第７ブロック（低学年）	羽田野道場（愛知県）	春日柔道クラブ（東京都）	松前柔道塾（東京都） 新越谷　山崎道場（埼玉県）
第８ブロック（低学年）	中山柔道会（千葉県）	東海少年柔道教室（愛知県）	誠錬館（茨城県） 下館武道館（茨城県）

銃剣道　8月1日開催

団体試合錬成

学　年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学５・６年生	滋賀県選抜（滋賀）	名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道）	七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団（宮城）	松戸練成館（千葉）
中学生	元気道場Ａ（新潟）	名寄ピヤシリ銃剣道少年団（北海道）	七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団（宮城）	柴波銃剣道クラブＡ（岩手）

銃剣道個人試合錬成

学　年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学１年生	田中悠聖（鳥取県立武道館）	足澤誉華（鳥取県立武道館）	桑野蓉大（掛川銃剣道連盟）	皆川康介（元気道場）
小学２年生	近藤草助（元気道場）	羽野ゆり（船橋武道倶楽部）	吉田怜奈（船橋武道倶楽部）	外尾海青（唐津錬武館）
小学３年生	平松花音（本間道場）	丸山智輝（元気道場）	岩渕将也（旭川銃剣道短剣道同好会）	相野煌（八戸クラブ）
小学４年生	金子詠音（元気道場）	宮田淳生（千歳少年銃剣道クラブ）	髙橋穂香（七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団）	長岡希望（元気道場）
小学５年生	谷武蔵（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	白木優敬（掛川銃剣道連盟）	滝沢柊士（元気道場）	大石幸村（掛川銃剣道連盟）
小学６年生	柴田拓海（九徳塾）	鈴木博斗（松戸練成館）	弘田幸輝（九徳塾）	中島草太（元気道場）
小学５・６年生女子	石山梨花（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	猪狩智晴（七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団）	細谷妃鶴（七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団）	中山結愛（今津銃剣道スポーツ少年団）
中学１年生	谷誓哉（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	光永瞬希（美幌銃剣道少年団）	入江琉生（今津銃剣道スポーツ少年団）	大内奏空（水戸クラブ）
中学２年生	中島光（元気道場）	渡辺星雅（七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団）	南部海音（美幌銃剣道少年団）	瀬川忠義（紫波銃剣道クラブ）
中学３年生	高田尚（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）	斑目穂高（須賀川銃剣道スポーツ少年団）	飯塚蓮（紫波銃剣道クラブ）	児玉聖矢（旭川銃剣道短剣道同好会）
中学生女子	小池陽子（元気道場）	中山鈴嵐（今津銃剣道スポーツ少年団）	滝沢琉夏（元気道場）	近藤桃子（元気道場）

短剣道個人試合錬成

学　年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学１・２年生	吉田怜奈（船橋武道倶楽部）	鍋田煌（博真館）	橋本塁（船橋武道倶楽部）	飯塚蘭（紫波銃剣道クラブ）
小学３・４年生	宮田淳生（千歳少年銃剣道クラブ）	平松花音（本間道場）	阿部遥香（紫波銃剣道クラブ）	髙橋穂香（七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団）
小学５・６年生	岩舘柚乃（紫波銃剣道クラブ）	柴田拓海（九徳塾）	弘田幸輝（九徳塾）	猪狩智晴（七ヶ浜銃剣道スポーツ少年団）
中学生	飯塚蓮（紫波銃剣道クラブ）	山中大世（宇都宮銃剣道クラブ）	阿部伶慈（紫波銃剣道クラブ）	佐久間蒼汰（名寄ピヤシリ銃剣道少年団）

なぎなた　8月5日開催

演技競技の部

学　年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学１・２年	田原小桃・保浦里華 (港区玉恵会)	三村茉奈・山口真歩 (横須賀なぎなた協会)	小川遼華・山下凜果 (幕張なぎなたスポーツ少年団)	熊澤紗彩・今村英恵 (鎌倉市なぎなた連盟)
小学３・４年Ａ	根本栞里・掛水悠璃凪 (中野区なぎなた連盟)	安部梨花・廣田優奈 (奈良市なぎなた連盟)	瓦間　咲・南原聖花 (和歌山市雄湊なぎなたクラブ)	平野友泉乃・中山晶恵 (江東区なぎなた連盟)
小学３・４年Ｂ	諸戸杏奈・末松奈々 (さくら弥富なぎなたクラブ)	大木美依・堀田　希 (弥富市なぎなたクラブ)	松岡ゆき寧・佐藤芽以 (さくら弥富なぎなたクラブ)	渥美尊仁・髙橋　杏 (浜松中央なぎなたクラブ)
小学５・６年Ａ	佐渡ひより・山田恵生 (幕張なぎなたスポーツ少年団)	藤川桃花・桝井千尋 (奈良市なぎなた連盟)	寺本春葉・土田花奏 (島根県なぎなた連盟)	山下心和・宮本音々 (満濃なぎなたスポーツ少年団)
小学５・６年Ｂ	高橋祥世・齋藤侃駿 (会津なぎなた連盟)	井手穂華・大谷舞桜 (佐賀県なぎなた連盟)	安部柚花・玉利　百 (奈良市なぎなた連盟)	小松耕大・佐々木映舞 (奈良市なぎなた連盟)
小学５・６年Ｃ	下元遥香・山口楓加 (さくら弥富なぎなたクラブ)	鈴木彩加・女ヶ澤綜磨 (一戸町なぎなた協会)	瀬長拓夢・山内麻央 (西原なぎなたクラブ)	船寄紗生・綿野紫月 (奈良市なぎなた連盟)
中学Ａ	大島尚子・長谷川柚 (都立富士高等学校附属中学校)	内藤日満璃・永井吉穂 (会津なぎなたスポーツ少年団)	秋葉真衣・稲場帆香 (山形市立第七クラブ)	南舘日奈太・東山璃音 (一戸町立一戸中学校)
中学Ｂ	水尻祥子・熊谷奈津美 (みたけなぎなたスポーツ少年団)	谷口りりか・小椙彩加 (南砺市立福野中学校)	田中夏葉・宮内藍子 (神奈川大学附属中学校)	西野光希・山本菜生 (清教学園中学校)
中学Ｃ	長谷川未歩・永田愛海 (会津なぎなたスポーツ少年団)	道明陽樺・渡部日向子 (会津なぎなたスポーツ少年団)	早田　葵・水木麻結 (南砺市立福野中学校)	伊藤美代・木下麻佑 (文化学園大学杉並中学校なぎなた部)
中学Ｄ	武平姫奈・平野穂怜 (富津市なぎなた連盟)	堀あゆみ・仲原壮汰 (弥富市なぎなた連盟)	久保田のえる・吉田天音 (会津なぎなたスポーツ少年団)	藤川未菜美・阿比留紗月 (伊丹スポーツセンターなぎなた教室)
中学Ｅ	下元桜音・平野七葉 (さくら弥富なぎなたクラブ)	服部帆南・飛渡舞香 (弥富市なぎなた連盟)	平田双葉・大杉真凜 (都立富士高等学校附属中学校)	黒岩優那・鈴木留加 (会津なぎなたスポーツ少年団)
中学Ｆ	小林加奈・小林加歩 (会津なぎなたスポーツ少年団)	樋口芙有子・武田夏葉 (東京都立南多摩中等教育学校)	藤原羽菜・國時佐和子 (都立富士高等学校附属中学校)	大家あみん・岸野莉子 (豊島区なぎなた連盟)
中学Ｇ	長嶋姫那・櫻庭　彩 (幕張なぎなたスポーツ少年団)	川口知咲季・山﨑理湖 (和歌山市雄湊なぎなたクラブ)	片山眞那・片山妃那 (愛知県なぎなた連盟豊川支部)	伊藤愛菜・服部小春 (弥富市なぎなた連盟)
中学Ｈ	奥田真央・犬伏麻緒 (川西スポーツクラブ)	柴田優月・工藤唯香 (一戸町立一戸中学校)	中村翠月・田辺ひな (大垣市立星和中学校)	小松純寧・佐藤瑠春 (山形市立第三中学校)

試合競技の部

学　年	優秀賞	優良賞	敢闘賞	
小学３年	幾久杏実 (汎愛チューリップクラブ)	宮脇笑理 (草津なぎなた)	遠藤瑚子 (川崎市なぎなた連盟)	岩佐　葵 (宇都宮市なぎなた教室)
小学４年	末松奈々 (さくら弥富なぎなたクラブ)	村上実音 (さくらんぼなぎなたクラブ)	小林諭都緑 (弥富市なぎなたクラブ)	上田えり (三重武道館クラブ)
小学５年	齊藤夏未 (みたけなぎなたスポーツ少年団)	関　笙乃 (豊島区なぎなた連盟)	笹谷柚日 (京都クラブ)	長谷川希 (愛知武道館クラブ)
小学６年	大谷舞桜 (佐賀県なぎなた連盟)	土田花奏 (島根県なぎなた連盟)	佐々木映舞 (奈良市なぎなた連盟)	寺本春葉 (島根県なぎなた連盟)
中学１年	中村心音 (福井なぎなたクラブ)	犬伏未奈 (川西スポーツクラブ)	平野七葉 (さくら弥富なぎなたクラブ)	森さくら (さくら弥富なぎなたクラブ)
中学２年	橋垣苺佳 (島根県なぎなた連盟)	内田　優 (佐賀県なぎなた連盟)	川島彩葵 (愛知武道館クラブ)	西野光希 (清教学園中学校)
中学３年	長井咲樹 (満濃中学校)	渡部　奏 (会津なぎなたスポーツ少年団)	東山璃音 (一戸町立一戸中学校)	佐藤七海 (会津なぎなたスポーツ少年団)
小学男子３・４年	後藤彩斗 (宇都宮市なぎなた教室)	藤本愛仁 (江の浦なぎなたスポーツ少年団)	奥住凪人 (新潟県なぎなた連盟)	太田有哉 (さくら弥富なぎなたクラブ)
小学男子５・６年	瀬長拓夢 (西原なぎなたクラブ)	齋藤侃駿 (会津なぎなた連盟)	森永　響 (養徳館)	船木　玲 (三重武道館クラブ)
中学男子	南舘日奈太 (一戸町立一戸中学校)	髙田　悟 (京都クラブ)	比留間寿彦 (狭山ヶ丘高等学校付属中学校)	仲原壮汰 (弥富市なぎなた連盟)

◆中学生段外の部

押見美佑・田辺志緒里、笹本千晶・加茂みおり（茨城県・清真学園少林寺拳法部）大角忠靖・岩田朋太朗（群馬県・前橋橘道院拳友会）清水杏虹・三尾康介、宮永颯太・林真歩、小澤康之介・高橋朋裕（埼玉県・朝霞道院拳友会）熊谷梨花・鈴木花香、落合桃子・二之宮巴菜、三塚百々花・佐藤水芳（東京都・富士見丘学園少林寺拳法部）井上紗希・川崎創太（東京都・東京田無道院拳友会）古澤理央・柳川弥里、高松莉良・中山心晴、池田弥来・久保田羽菜（東京都・早稲田実業少林寺拳法部）

◆中学生有段の部

飯塚葵・飯塚日向（群馬県・群馬富岡道院拳友会）角田正人・角田諒（千葉県・千葉海匝道院拳友会）鈴木湊・新田悠輔（愛知県・名古屋植田道院拳友会）松本幸大・武部鑑（京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団）坂本結彩・片岡千佳、中内洋希・堀口叶愛（和歌山県・南部スポーツ少年団）

≪単独基本演武≫

◆小学生３級～１級の部

水林天朋（北海道・上富良野道院拳友会）瀧澤駿哉（秋田県・秋田湯沢スポーツ少年団）岡野斗星（茨城県・水戸スポーツ少年団）山本遥音、秋山浩克（茨城県・波崎スポーツ少年団）石川惺己（群馬県・群馬多々良道院拳友会）岩田悠之介（群馬県・前橋橘道院拳友会）佐藤咲慧（群馬県・群馬北毛道院拳友会）大澤絢女（埼玉県・埼玉深谷道院拳友会）深山真里菜（埼玉県・埼玉鶴瀬道院拳友会）中村悠翔（千葉県・浦安スポーツ少年団）佐藤蒼の（千葉県・市原東道院拳友会）岡村昌信、岡村紅音（千葉県・習志野台スポーツ少年団）濱中ひまり（東京都・板橋加賀スポーツ少年団）片山日向子（東京都・日本武道館武道学園少林寺拳法部）荻野えりか（神奈川県・横浜戸塚道院拳友会）森瑠馬（神奈川県・秦野道院拳友会）癸生川麗乃（神奈川県・伊勢原道院拳友会）香山莞爾（神奈川県・相模大野道院拳友会）齋藤葵、阿部優紀（神奈川県・川崎幸スポーツ少年団）浦崎哲徳（石川県・金沢東道院拳友会）大矢悠喜（長野県・塩尻桔梗道院拳友会）和田ゆりあ、太田歩武（愛知県・愛岐錬成館道院拳友会）箕輪亨（奈良県・大和桜井道院拳友会）松本澪音（奈良県・奈良春日スポーツ少年団）坂元颯晟（和歌山県・かつらぎ東スポーツ少年団）奥平春妃、峯玉凜空（和歌山県・田辺西スポーツ少年団）米澤裕一朗（徳島県・大麻スポーツ少年団）藤井颯人（徳島県・徳島北島スポーツ少年団）

◆小学生４級の部

田澤大慈（岩手県・滝沢スポーツ少年団）加藤来望（秋田県・秋田雄物川スポーツ少年団）荒井二葉、佐々木詞望（茨城県・茨城神栖スポーツ少年団）髙澤堅知（栃木県・栃木瑞穂道院拳友会）多武保勇輝（埼玉県・和光新倉スポーツ少年団）樽塚夢渚（千葉県・千葉茂原道院拳友会）駒場大維知（千葉県・市原千種スポーツ少年団）児玉燦（東京都・南中野道院拳友会）ケンアマラルナ（東京都・国立中スポーツ少年団）荒木まこ（神奈川県・神奈川大和道院拳友会）宮本一花（長野県・信州宮田生涯教育スポーツクラブ）コピトスキー怜奈河上（長野県・長野更埴道院拳友会）田中愛（愛知県・熱田道院拳友会）宮本音哉、大木琥太郎（和歌山県・南部スポーツ少年団）

◆小学生６級～５級の部

日置実来（福島県・福島双葉道院拳友会）秋山浩汰（茨城県・波崎スポーツ少年団）大石瞭惺（茨城県・牛久市ひたち野スポーツ少年団）水出拓実（群馬県・上州白根道院拳友会）澤山魁人（埼玉県・埼玉三ケ島道院拳友会）野中槙人（埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団）嶋村旺大（埼玉県・志木スポーツ少年団）霜鳥優菜、徳永佳奈（千葉県・千葉山王道院拳友会）角田優佳（千葉県・千葉海匝道院拳友会）堀之内大樹（千葉県・千葉おゆみ野スポーツ少年団）上笹貫雄介、荒井天斗虎（東京都・東京試衛舘道院拳友会）牧野凜那（東京都・東京足立東和道院拳友会）中島春樹（長野県・長野南スポーツ少年団）田中咲絢、山崎零弥（長野県・信州宮田生涯教育スポーツクラブ）河野道心（愛知県・一宮中部道院拳友会）尾崎あおり（奈良県・大和桜井道院拳友会）前川莉暖（和歌山県・田辺西スポーツ少年団）鈴木陽人、淵上藍琉（岡山県・備中高松スポーツ少年団）川上清丸（徳島県・大麻スポーツ少年団）岡田陽南、岡田里奈（大分県・国東港スポーツ少年団）

◆小学生見習い～７級の部

和泉洸成（秋田県・秋田湯沢スポーツ少年団）高木瑛飛（福島県・福島鮫川道院拳友会）新村泰人（茨城県・茨城阿見道院拳友会）渡部奏汰、日高純哉、山崎央楽、西田翔（茨城県・茨城神栖スポーツ少年団）水梨風翔、田崎徠人（茨城県・牛久市ひたち野スポーツ少年団）唐沢哲汰（群馬県・上州白根道院拳友会）茂手木美羽（群馬県・群馬多々良道院拳友会）吉田あかり（群馬県・前橋中部道院拳友会）髙澤諒、萩原千翔（群馬県・前橋橘道院拳友会）田村太晴（群馬県・群馬北毛道院拳友会）野田真志（埼玉県・埼玉中部道院拳友会）五十嵐恵那（埼玉県・埼玉鶴瀬道院拳友会）高野暖（埼玉県・草加道院拳友会）中村心音（埼玉県・東松山スポーツ少年団）木村啓太郎（埼玉県・埼玉神川スポーツ少年団）小池匡、石井龍嘉（千葉県・千葉山王道院拳友会）花谷武知（千葉県・西船橋道院拳友会）神谷夏帆、平山真莉（千葉県・千葉市海浜スポーツ少年団）足立菜摘（東京都・武蔵国分寺スポーツ少年団）海老名恭（東京都・練馬道院拳友会）中山瑛心（東京都・久米川道院拳友会）星舜堯（東京都・東京平井道院拳友会）吉本考輝、竹本心菜、西山泰生、原島健豪（東京都・東京東陽町道院拳友会）長谷川創（東京都・国立中スポーツ少年団）砂原広陸（東京都・東京飛鳥道院拳友会）吉田小純（神奈川県・神奈川大和道院拳友会）渡邉京佑（神奈川県・川崎西道院拳友会）古木日菜（神奈川県・伊勢原道院拳友会）中出楓香（石川県・石川根上スポーツ少年団）近藤史啓（長野県・松本美ヶ原スポーツ少年団）田中歩（愛知県・熱田道院拳友会）横畑光一、林透馬（愛知県・岡崎こだるま道院拳友会）石田紫暖（愛知県・日進南道院拳友会）峯玉芽唯（和歌山県・田辺西スポーツ少年団）笹原悠聖、糸川涼介（和歌山県・南部スポーツ少年団）玉置凪（和歌山県・和歌山西庄スポーツ少年団）

≪団体の部≫

◆中学生の部

安武那美・加茂みおり・笹本千晶・押見美佑・田辺志緒里・富澤菜月（茨城県・清真学園少林寺拳法部）岩田悠之介・大関栞里・大角忠靖・秋庭圭吾・斎藤亮澄・五十嵐優翔・岩田朋太朗・宇貫航平（群馬県・前橋橘道院拳友会）安藤春希・高野紘吉・松浦直輝・茂木明日香・竹田昂太・針生壮一・福田崇純・廣内将剛（千葉県・我孫子道院拳友会）落合桃子・佐藤水芳・二之宮巴菜・内山円璃・田北琴子・三塚百々花（東京都・富士見丘学園少林寺拳法部）満田灯里・野島さち・小澤美裕・中村真優華・谷津ひなた・中馬彩香、吉野久人・吉田響希・佐々木陽風・野本陸・渡辺流唯・澤井聡志（東京都・加住小中学校少林寺拳法部）川合琉也・新納颯真・服部瑠璃・杉浦写弥武・服部瑠起・森島日向・市川晃丞・近藤康世（愛知県・名古屋太子道院拳友会）市古光音・松本梨沙・三原碧音・林和花・加藤大雅・岡本秋実（愛知県・豊明西川スポーツ少年団）吉田拓真・髙岡凌雅・中村湧・小泉春樹・松田煌生・大内陽斗、津岡春・福井基人・岡田瞭・高橋羽流生・田澤昌玖・辻川祐太朗（京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団）

◆小学生の部

髙澤堅知・髙澤弥結・吉澤翔太・西山耕友・田﨑成禎・矢口健太郎（栃木県・栃木瑞穂道院拳友会）島杏菜・内田和志・朝部早智・遠藤洸太・新野邊己央・島啓祐・池田遼斗・大倉巧（茨城県・鹿島港南スポーツ少年団）若林柑奈・石川惺己・斉藤琉叶・柳田悠希・藤村琴音・中嶋悠人（群馬県・群馬多々良道院拳友会）藤井吾王葉・須貝悠矢・田村太晴・粕川知希・石岡歩武・佐藤咲慧（群馬県・群馬北毛道院拳友会）山口聡太・髙橋大我・飛田和蓮・荻野大陸・中山閏之祐・太田柚乃（埼玉県・東松山スポーツ少年団）小林大翔・佐光臣仁・高橋蒼太朗・山崎幸之助・藤田芯・伊東照真（千葉県・我孫子道院拳友会）平田十真・茅原希介・森乙葉・末岡慶士・平田月太郎・吉田恵咲（東京都・東京石神井スポーツ少年団）長岡力哉・上原岳大・佐々木透空・任馨・谷津早・中村藍子・中江弥咲・横松枝里香（東京都・加住小中学校少林寺拳法部）野田苑佳・裏谷芽夕・山出真由・中田光南・中出愛斗・成宮彩珠（石川県・石川根上スポーツ少年団）古川遥己・濱島芽華・上馬場慎也・三原璃久・近藤夏凪・加藤彩芭（愛知県・豊明東道院拳友会）牧村一生・八田眞桜・西塚百花・幸島歩夢・新納健心・渡辺萩斗・牧村湧月・中島幹大（愛知県・名古屋太子道院拳友会）大村航太郎・倉谷直希・大澤伊織・松本幸大・中村悠希・武部鑑（京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団）堀口虎之介・坂本有優・宮本音哉・石丸万葉・大木琥太郎・平野悠伸、大川綾斗・中内洋希・片岡千佳・堀口叶愛・室井良太・坂本結彩・寺谷洋祐・山下陽生（和歌山県・南部スポーツ少年団）

少林寺拳法 ―＜優秀賞＞

≪規定組演武≫

◆小学生１級

千葉真綾・戸塚大耀（宮城県・青葉道院拳友会）高橋信乃・三浦輝（宮城県・多賀城城南道院拳友会）高橋光香・塩田ひより（宮城県・仙台東道院拳友会）斎藤滉大・常松琉斗（福島県・須賀川スポーツ少年団）池田遼斗・内田和志（茨城県・鹿島港南スポーツ少年団）斉藤琉叶・藤村琴音（群馬県・群馬多々良道院拳友会）粕川知希・須貝悠矢（群馬県・群馬北毛道院拳友会）木村心春・菊地苺花（埼玉県・埼玉深谷道院拳友会）大澤駿・山﨑大悟（埼玉県・埼玉鶴瀬道院拳友会）若杉拓実・今井大智（埼玉県・武蔵浦和道院拳友会）山本敢太郎・高橋瑛斗（埼玉県・蕨市スポーツ少年団）佐光臣仁・山崎幸之助、藤田志・高橋蒼太朗（千葉県・我孫子道院拳友会）山崎聡大・岡田蒼樹（千葉県・千葉清見台道院拳友会）川崎健・安藤璃衣那（千葉県・袖ヶ浦長浦スポーツ少年団）橋本盛太郎・橋本優里穂（東京都・八王子西道院拳友会）岩本昊汰・岩本圭汰（神奈川県・秦野道院拳友会）小島武琉・菊池一、城所丈・樋口龍健（神奈川県・伊勢原道院拳友会）平原慈慧・飯田名結（神奈川県・川崎東道院拳友会）沼野晄摩・鈴木海音（静岡県・浜北東部道院拳友会）高田光穂・福村優月（静岡県・清水袖師道院拳友会）田中琉星・安田桜晴（愛知県・知多東浦スポーツ少年団）渋谷海斗・楠本悠吏、篠原逸希・鴨田尚典（香川県・琴弾スポーツ少年団）

◆小学生２級

山内優奈・千葉紗也、山内隆楽・宇佐美豪琉（宮城県・青葉道院拳友会）太田爽樹・渡邊和嘉（福島県・白河東スポーツ少年団）半田葉琉・坂東弘太郎（埼玉県・朝霞道院拳友会）山口聡太・飛田和蓮（埼玉県・東松山スポーツ少年団）石井そら・齊藤匠、清水美佑・田中南帆（埼玉県・埼玉神川スポーツ少年団）津根佑哉・時谷拓夢（千葉県・市原南スポーツ少年団）吉田創達・林杏（神奈川県・川崎柿生道院拳友会）中村夕夏・幸村はる菜（神奈川県・海老名東道院拳友会）成宮彩珠・中田光南（石川県・石川根上スポーツ少年団）篠田大煌・大橋燈和（愛知県・一宮中部道院拳友会）大川綾斗・室井良太（和歌山県・南部スポーツ少年団）難波なつみ・芳賀友希乃（岡山県・備中高松スポーツ少年団）

◆小学生３級

西山耕友・矢口健太郎（栃木県・栃木瑞穂道院拳友会）山口瀬里菜・畠山漣大郎（埼玉県・朝霞道院拳友会）秋谷実紀・河野楓香（埼玉県・埼玉川島道院拳友会）米山理生・廣瀬叶佳（埼玉県・蕨市スポーツ少年団）茅原希介・吉田恵咲（東京都・東京石神井スポーツ少年団）八谷花怜・濱口純（東京都・八王子陵北スポーツ少年団）大竹優青・川村鷹之将（東京都・東京辰巳道院拳友会）藤田善大・菅谷昊汰（神奈川県・相模林間道院拳友会）牧大翔・浮渡寿美玲（神奈川県・下溝スポーツ少年団）野田苑佳・山出真由（石川県・石川根上スポーツ少年団）吉田政仁・吉田政貴、金澤アロハ・佐竹咲音（京都府・福知山スポーツ少年団）

◆小学生４級

菊田美空・佐藤煌記（宮城県・仙台東道院拳友会）高橋快・大槻漣惺（宮城県・仙台西道院拳友会）山田悠翔・山田瑞季（茨城県・水戸スポーツ少年団）五十嵐陽祐・深山僚太（埼玉県・埼玉鶴瀬道院拳友会）佐藤光咲・吉村颯紗、宇田川太悠・小澤夏希（埼玉県・朝霞道院拳友会）安藤成央・森海成（埼玉県・埼玉北鴻巣道院拳友会）野中涼帆・飯野龍海（埼玉県・武蔵嵐山スポーツ少年団）宮﨑龍大・池田航太（千葉県・西船橋道院拳友会）佐藤稜太・大山朝陽（千葉県・市原東道院拳友会）早山乃永・河野瑠美（千葉県・船橋宮本道院拳友会）古閔羽来・古閔美来（千葉県・市原千種スポーツ少年団）高澤宗伍朗・高澤杏理（千葉県・千葉おゆみ野スポーツ少年団）宮本寿幸・三木大地（東京都・東京足立東和道院拳友会）川崎雪乃・四方勇輝（東京都・東京田無道院拳友会）蟹江玲応・蟹江飛呂（東京都・東京東陽町道院拳友会）鳥越希羽・池田來々南（東京都・八王子陵北スポーツ少年団）安井隼輔・福田智仁（東京都・東京西品川道院拳友会）杉本梓紗・杉崎桜月（神奈川県・伊勢原道院拳友会）箕浦弘人・原田明歩（神奈川県・下溝スポーツ少年団）中出愛斗・裏谷芽夕（石川県・石川根上スポーツ少年団）加藤悠月・中川悠（福井県・福井新田塚道院拳友会）川合美緒・吉水ありさ、新郷日奈子・八田知咲（愛知県・名古屋太子道院拳友会）大村航太郎・大澤伊織（京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団）堀口虎之介・寺谷洋祐（和歌山県・南部スポーツ少年団）橋本隆清・寺澤海伊里（和歌山県・和歌山西庄スポーツ少年団）松本直・井上聖陽（愛媛県・伊予八幡浜道院拳友会）加藤遼馬・伊藤綾那（愛知県・デンソー少林寺拳法部）

◆小学生５級

坂本開基・横山瑠泉（群馬県・渡良瀬道院拳友会）若林柑奈・中嶋悠人（群馬県・群馬多々良道院拳友会）田中柊吾・小城悠真（埼玉県・埼玉神川スポーツ少年団）伊東照真・高橋葉流（千葉県・我孫子道院拳友会）横川歩海・大木琢己（千葉県・野田川間道院拳友会）城所煌輝・城所麗緒（千葉県・市原千種スポーツ少年団）竹内望々・千野優月（東京都・武蔵国分寺スポーツ少年団）小泉楓・小泉泰輝（東京都・多摩桜ヶ丘道院拳友会）上甲太一・牛久保莉花（東京都・八王子松枝道院拳友会）平田月太郎・末岡慶士（東京都・東京石神井スポーツ少年団）長岡力哉・谷津早（東京都・加住小中学校少林寺拳法部）大宝快・山川楓（神奈川県・川崎柿生道院拳友会）日高拓真・須藤啓（神奈川県・海老名東道院拳友会）前田琉人・近藤龍祐、前田友那・前田琉央（奈良県・大和桜井西道院拳友会）峯玉星那・奥平妃莉（和歌山県・田辺西スポーツ少年団）坂本有優・石丸万葉（和歌山県・南部スポーツ少年団）

◆小学生６級

小河原めい・浅見佳李（秋田県・秋田湯沢スポーツ少年団）鈴木快雅・中川西悠（福島県・福島鮫川道院拳友会）佐久間大希・玉木湊佐（福島県・須賀川スポーツ少年団）石岡歩武・藤井吾王葉（群馬県・群馬北毛道院拳友会）今井千登・小原瑛太（埼玉県・武蔵浦和道院拳友会）平栗怜・小宮山諒、平栗沙恵・小宮山怜（埼玉県・埼玉上尾スポーツ少年団）山崎千尋・竹田あいな（千葉県・我孫子道院拳友会）小菅耕太・小菅陽菜（千葉県・流山北道院拳友会）小森裕佳・峰尾凛生（東京都・八王子松枝道院拳友会）牧野瑠依・三木海里（東京都・東京足立東和道院拳友会）若松宗亮・長内康樹（東京都・東京田無道院拳友会）金子元譲・高畑慈（東京都・八王子陵北スポーツ少年団）片山匠・長坂敏希（東京都・日本武道館武道学園少林寺拳法部）田川真帆・田川虎次郎（神奈川県・小田原道院拳友会）飯塚朝陽・渡部宝（神奈川県・川崎柿生道院拳友会）鈴木悠仁・久保太海（神奈川県・湘南中井スポーツ少年団）

◆小学生見習い～７級

中村顕久・中村祥久、内海玲真・守谷夏音（宮城県・青葉道院拳友会）大倉聡・鈴木心愛（茨城県・鹿島港南スポーツ少年団）須藤琉維・飯田真翔（茨城県・茨城岩井スポーツ少年団）長野十座・井野口航汰（群馬県・群馬多々良道院拳友会）藤原亜季郁・花園康太朗（埼玉県・草加道院拳友会）駒場仁旗・古閔大助（千葉県・市原千種スポーツ少年団）大西陽輝・中村悠太郎（東京都・南中野道院拳友会）横田葵子・二日市陸生、谷津優・野田悠貴（東京都・加住小中学校少林寺拳法部）近川理一・古谷田和（神奈川県・神奈川大和道院拳友会）谷川満音・矢島佳苗（神奈川県・川崎柿生道院拳友会）山本晃・癸生川柚華（神奈川県・伊勢原道院拳友会）若林大輝・古木空翔（神奈川県・相模林間道院拳友会）黒岩直矢・小沼宗嗣（神奈川県・湘南中井スポーツ少年団）瀬川祐里奈・伊豫田旺佑（愛知県・岡崎こだるま道院拳友会）藤本凪・鬼頭由奈、深浦実千花・篠田徠夢（愛知県・一宮中部道院拳友会）三前遥愛・栗山穂乃花（和歌山県・南部スポーツ少年団）

≪自由組演武≫

◆小学生有段の部

佐々木音乃・佐々木徳空（秋田県・秋田雄物川スポーツ少年団）田﨑蓮太・髙嶋大輝（栃木県・栃木瑞穂道院拳友会）島田祥太朗・藤井葉衣樹、小田切紗羅・島田瑞穂（群馬県・群馬北毛道院拳友会）松本大智・倉田有雀（埼玉県・熊谷道院拳友会）新井一矢・秋本翼（埼玉県・埼玉三ケ島道院拳友会）稲吉恵真・村越風善（埼玉県・埼玉神屋道院拳友会）横瀬龍汰・安藤琥斗輝（千葉県・袖ヶ浦長浦スポーツ少年団）黒澤玲音・赤塚遼太朗（東京都・国立中スポーツ少年団）中村真優華・佐々木陽風、野本陸・中馬彩香（東京都・加住小中学校少林寺拳法部）石井大馳・吉井惺椰（神奈川県・横浜寿道院拳友会）中村洸士・河野友希（神奈川県・神奈川嶽之内道院拳友会）日光駿太・土本拓実（石川県・石川根上スポーツ少年団）川合琉也・服部瑠璃、中田暮翼・石田俊裕（愛知県・名古屋太子道院拳友会）津岡春・福井基人、岡田暸・田澤昌玖、高橋羽流生・辻川祐太朗（京都府・伏見丹波橋スポーツ少年団）

日本武道館の単行本

唐手から空手へ

空手評論家
金城　裕（きんじょう　ひろし）著

題字　松永光日本武道館会長

（四六判・上製・四五四頁）

今の空手は、その源流である唐手（からて）の精神と伝統の技を忘れて成長してしまった。空手の将来に豊かな展望を持つためにも、唐手誕生の歴史を正しく認識する必要がある――。

空手修業歴八十年。生涯を空手に捧げてきた著者が史料を繙きながら、唐手が誕生し、空手となった過程を辿る。武道研究者必携の一書。

〈目次〉

第一章　「唐手」とは、の問いに答える
第二章　中国拳法を巡って
第三章　琉球と中国の関係史
第四章　松村宗昆、「手」に息吹きを与える
第五章　首里手から唐手へ
第六章　「唐手」から「空手」へ
終　章　空手の進むべき道

編集・発行　日本武道館
〒102-8321　東京都千代田区北の丸公園2-3
ホームページhttp://www.nipponbudokan.or.jp

お問い合わせ・ご注文は日本武道館出版広報課までどうぞ！
TEL03(3216)5147
FAX03(3216)5158

日本武道館発行の単行本

日本の武道

日本武道館 編

一千数百年の歴史を有する武道の全容を一冊に集大成。武道小百科事典としても役立つ充実の巻末資料など、武道関係者必携の書。

（B5判・上製・箱入・526頁）

我が空手人生

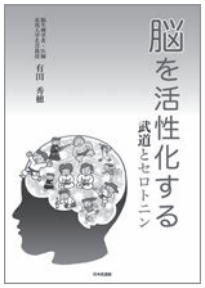
國際松濤館空手道連盟館長　金澤 弘和 著

父母の教え、「からて」との出合い、厳しい修行、組織の結成、そして独自の空手理論構築まで、世界に空手を普及した男の記録。

（四六判・上製・372頁）

脳を活性化する 武道とセロトニン

東邦大学名誉教授　有田 秀穂 著



人間の心身を安定させるセロトニン――。その研究の第一人者が、誰もができる脳を活性化させる方法をわかりやすく解説。

（A5判・並製・346頁）

BUDŌ: THE MARTIAL WAYS OF JAPAN

日本武道館 編

翻訳・編集：アレキサンダー・ベネット

武道のすべてを網羅した『日本の武道』の英語版。海外武道修業者におすすめの書。

（B5判・上製・336頁・DVD付）

マンガ・武道のすすめ

漫画家・別府大学教授　田代しんたろう 著

武道の良さ、すばらしさを、わかりやすく描く。大人も子どもも読んで楽しく、ためになる武道教養マンガ。空手道は5話を掲載。

（B5判・並製・236頁）

大先輩に聞く

月刊「武道」記者　田谷 将俊 著

各武道の先達三十名に直接取材。武道との出合いから修行時代、そして現在を語る。空手道では江里口栄一、辻川禎親、金城裕の3氏を収録。

（四六判・上製・376頁）

月刊 心技体 人を育てる総合誌
武道

月刊「武道」は、全国の書店で販売しています。